

中里遺跡  
発掘調査報告書

2000

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

なか ざと  
中 里 遺 跡

発掘調査報告書

平成12年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター





中里遺跡俯瞰写真（南から）



ST2105出土土器



## 序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、中里遺跡の調査成果をまとめたものです。

中里遺跡は、山形県の最南部に位置する米沢市に所在します。米沢市は古くから城下町として発展し、国指定の史跡一ノ坂遺跡や米沢城跡、上杉家御廟所、上杉本洛中洛外園屏風などをはじめとして多くの史跡や文化財があり、置賜盆地の中心地として今日に至っています。

この度、県営担い手育成基盤整備事業に伴い、工事に先立って中里遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、竪穴住居跡や掘立柱建物跡のほか、井戸跡や溝跡などの遺構が検出され、土師器・須恵器・赤焼土器・中世陶磁器などの遺物が出土し、古墳時代・奈良・平安時代・中世の集落が存在したことが確認されました。

近年、高速自動車道やバイパス工事、農業基盤整備事業、その他開発が進み、これに伴い発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査において御協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成12年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
理事長 木場 清耕

## 例　　言

1 本書は、県営担い手育成基盤整備事業（外の内地区）に係る「中里遺跡」の発掘調査報告書である。

2 調査は山形県置賜平野土地改良事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3 調査事項は下記の通りである。

遺跡名 中里遺跡　遺跡番号 J-250（米沢市遺跡番号）

所在地 山形県米沢市塙田町塙田字藏京3,305他

調査主体 財団法人山形県埋蔵文化財センター

受託期間 平成11年4月1日～平成12年3月31日

現地調査 平成11年8月16日～平成11年10月15日

調査担当者 調査第一課長 野尻 優

調査第四課長 名和 達朗

調査研究員 押切 智紀（調査主任）

調査員 黒沼 幹男

4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県置賜平野土地改良事務所、東南置賜教育事務所、米沢市教育委員会等関係機関、並びに米沢市の方々から協力いただいた。また、資料整理にあたって、青山博樹氏（福島県文化センター）、岩見和泰氏・村田晃一氏（宮城県教育委員会）、高橋誠明氏（古川市教育委員会）、藤沢 敦氏（東北大学）、柳沼賢治氏・鳴原靖彦氏（郡山市埋蔵文化財事業団）、手塚 孝氏（米沢市教育委員会）からご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げる。

5 本書の作成・執筆は、押切智紀、黒沼幹男が担当した。編集は須賀井新人、犬飼 透、衣袋 忠雄が担当し、全体については野尻 優、名和達朗が監修した。

6 委託業務は下記の通りである。

遺構写真実測 フジシン技術コンサルタント

理化学試料分析 フジパリノ・サーヴェイ

7 出土遺物・調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

## 凡　例

1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りである。

S T … 竪穴住居跡	S B … 掘立柱遺物跡	S K … 土坑跡
S D … 溝跡	S P … ピット・小穴	S E … 井戸跡
S X … 性格不明遺構	E B … 柱穴掘方	E L … 炉跡・カマド跡
E P … 遺構内ピット	E K … 遺構内土坑	E D … 遺構内溝
R P … 登録土器	R Q … 登録石製品	R M … 登録金属製品
P … 土器	S … 石	

2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。

3 報告書執筆の基準は下記の通りである。

- (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
- (2) グリッドの南北軸は、N - 45° - E を測る。
- (3) 遺構実測図は 1/30・1/40・1/50・1/60・1/80・1/250・1/400・1/600縮図で採録し、挿図毎にスケールを付した。なお、実測図中の●は遺物の出土地点を表す。
- (4) 遺物実測図・拓影図は、原則的に 1/3 を標準として採録し、それ以外の場合には個々に表示した。
- (5) 遺物図版については任意の縮尺であるが、同じ器種の縮尺はほぼそろえている。
- (6) 遺物実測図・拓影図の土器は土師器、赤焼土器及び中世磁器は白ぬき、須恵器、中世陶器は黒塗りで表示した。また、土器内外面の網点は黒色処理を表している。
- (7) 焼土については (■) で表示した。
- (8) 本文中の遺物番号は、遺物実測図・遺物観察・遺物図版とも共通のものとした。
- (9) 遺物について本文中で取り上げる場合には、「第○図△番」を「○-△」または(△)と略記した。
- (10) 出土遺物観察表中の( )内の数値は、図上復元による推定値であり、破片での現存値は省略している。
- (11) 基本層序および遺構覆土の色調の記載については、1998年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。

# 目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の経過	1
II 立地と環境	
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 遺跡の概観	
1 基本層序	5
2 造構と遺物の分布	5
IV 検出された造構	
1 壱穴住居跡	7
2 掘立柱建物跡	18
3 井戸跡	18
4 土坑跡	23
5 溝跡	23
6 性格不明造構	26
V 出土した遺物	
1 古墳時代の遺物	31
2 その他の遺物	38
VI まとめ	
まとめ	45
報告書抄録	46
付図	65
中里遺跡理化学分析業務報告（抜粋）	

## 表

表1 中里遺跡出土遺物観察表(1)	43
表2 中里遺跡出土遺物観察表(2)	44
表3 中里遺跡出土遺物観察表(3)	44

## 挿 図

第1図 遺跡位置図 .....	3	第16図 S E 233・2608井戸跡 .....	22
第2図 調査区概要図 .....	4	第17図 S K 土坑跡 .....	24
第3図 基本層序 .....	5	第18図 S D 27他溝跡 .....	25
第4図 遺構配置図 .....	6	第19図 調査区南東部溝跡 .....	27
第5図 S T 689堅穴住居跡 .....	8	第20図 S X 1701・1856性格不明遺構 .....	28
第6図 S T 1571・2500堅穴住居跡 .....	9	第21図 S X 2627性格不明遺構他 .....	30
第7図 S T 2019・2053堅穴住居跡 .....	11	第22図 出土遺物(1) .....	33
第8図 S T 2035堅穴住居跡 .....	13	第23図 出土遺物(2) .....	34
第9図 S T 2054堅穴住居跡 .....	14	第24図 出土遺物(3) .....	35
第10図 S T 2054遺物出土状況 .....	15	第25図 出土遺物(4) .....	36
第11図 S T 2100堅穴住居跡 .....	16	第26図 出土遺物(5) .....	37
第12図 S T 2105堅穴住居跡 .....	17	第27図 出土遺物(6) .....	39
第13図 S B 2501・2506掘立柱建物跡 .....	19	第28図 出土遺物(7) .....	40
第14図 S E 1388井戸跡 .....	20	第29図 出土遺物(8) .....	41
第15図 S E 1529井戸跡 .....	21	第30図 出土遺物(9) .....	42

## 図 版

卷頭図版 1 中里遺跡俯瞰写真 S T 2105出土土器	国版 6 S D 27・1182・1719溝跡、S X 1856・ 2627性格不明遺構他検出状況及び遺物 出土状況
図版 1 調査区空中写真・作業風景他	国版 7 出土遺物(1)
図版 2 S T 689・1571・2500堅穴住居跡 検出状況及び遺物出土状況	国版 8 出土遺物(2)
図版 3 S T 2019・2053・2035堅穴住居 跡検出状況及び遺物出土状況	国版 9 出土遺物(3)
図版 4 S T 2054・2100・2105堅穴住居 跡検出状況及び遺物出土状況	国版 10 出土遺物(4)
図版 5 S B 2501・2506掘立柱建物跡、 S E 233・1388・1529・2608井戸 跡他検出状況及び遺物出土状況	国版 11 出土遺物(5) 国版 12 出土遺物(6) 国版 13 出土遺物(7)



## I 調査の経緯

### 1 調査に至る経過

中里遺跡は、山形県最南部にある米沢市北部の窪田地区に位置し、北部は高畠町、西部は川西町と飯豊町に接し、東を流れる母なる川「最上川」によって形成された自然堤防上に拓かれた集落跡である。

今回の発掘調査は山形県農林水産部による平成11年度県営担い手育成基盤整備事業(外の内地区)に伴って実施されたものである。本遺跡は昭和61年米沢市教育委員会によって登録された遺跡である。平成10年10月、山形県教育庁文化財課により事業計画内の詳細分布調査(試掘調査)が実施された。その結果、竪穴状遺構・柱穴・溝跡・土坑跡などの遺構と中世陶器や繩文土器などの遺物が検出され、遺跡は最大長東西150m、南北90mの約11,200m<sup>2</sup>を遺跡範囲とする縄文時代・中世の集落跡と推定された。

これらの資料をもとに山形県教育庁文化財課では事業主体者である山形県置賜平野土地改良事務所との間で遺跡の取扱について協議を行い、現状保存の可能性や工事施工方法なども含めた調整協議が行われた。その結果、やむを得ず破壊されると判断された工事区内5,600m<sup>2</sup>の部分について、工事に先立って、図面や写真などによる記録保存を目的とした緊急発掘調査で対応することになり、平成11年度に財團法人山形県埋蔵文化財センターが山形県置賜平野土地改良事務所の委託を受けて発掘調査を実施することになったものである。

### 2 調査の経過

現地調査は平成11年8月16日から10月15日までの実働43日間の日程で行った。

調査の経過であるが、8月16日に発掘器材の搬入と現場事務所の設営など、発掘作業のための諸準備をした。次に地表面や遺物包含層確認のため調査区内に試掘トレンチを設定し掘り下げ、遺構面及びその深さを検討し、その結果に基づいて、重機を導入して耕作土(表土)を除去、併行して面整理を繰り返しながら、遺構の確認にあたった。

遺構や遺物の位置関係を正確に記録するために5m×5mを1単位とするグリッド(方眼区画)を設定した。南北軸に北からアラビア数字による番号を、東西軸に西からアルファベットによる記号を割り当てた。途中、調査区が100m<sup>2</sup>西側に拡大されたため、東から西へと小文字のアルファベットを付け加え対処した。グリッドの南北軸は磁北から45°東に振れる。

遺構検出後に白線マーキングを行い、統いて遺構精査に入った。その間、適宜遺構などの平面図や断面図、出土遺物の図面作成、写真撮影などの記録作業とともに遺物の収集を行った。

10月7日と10月14日には空中撮影による写真実測を行った。

なお、10月8日に調査結果を公表し、埋蔵文化財に対する理解と保護思想の啓発・普及を目的として現地説明会を実施し、10月15日器材を撤収し、現地調査を終了した。

その後、整理作業に入り、ネーミング・実測・拓本・トレース・版組などの作業をし、報告書作成を行った。

## II 立地と環境

### 1 地理的環境

山形県最南部に位置し、福島県と県境を共にする米沢市は、東部は奥羽山脈、南部は吾妻山地、西部は笛野山地・玉庭丘陵が広がり白鷹丘陵へと続く。このように三方を山に囲まれた米沢盆地は寒暖の差が激しい内陸型の気候で、県内でも雪の多い土地柄である。中央部から南部は米沢盆地の北端にあたる平坦地で、最上川や天王川、鬼面川などによって形成された扇状地群が広がる。市街地はこの扇状地上に位置する。

中里遺跡は米沢市役所の北東約6kmに位置し、東西約150m、南北約90m規模で広がっている。標高は221mを測る。遺跡のすぐ東を江戸期の業績である「黒井堰」が南から北へと続き、さらに東側300m先を母なる川「最上川」が流れている。

米沢市も近年、種々の開発がめざましく進み、工事に先だって発掘された遺跡も数多く存在している。また、遺跡の近くを米沢・南陽道路（東北中央自動車道の一部）が走り、すっかり様相が変わりつつある。

### 2 歴史的環境

これまでの発掘調査をふまえ、米沢市の主な遺跡について概観したい。米沢市には600を越える遺跡が登録され、様々な事業に関連して現在まで数多くの遺跡が調査されている。

縄文時代の遺跡としては、国指定の史跡「一ノ坂遺跡」があげられる。市街地の西方約2kmの笛野山西端の微高地に位置し、縄文時代前期初頭の遺跡とされている。中でも、国内最長の大型竪穴住居跡が確認され、石器製作を専業としていた石器工房跡と推定されている。

また、古墳時代の遺跡としては、市街北東部にある戸塚山古墳群があげられる。山頂や山麓を中心に前方後円墳や帆立貝式古墳など193基を数え、5世紀後半から8世紀の末期古墳までの長い年月にわたって築造されたものである。

中田町笛原地内に所在する笛原遺跡は奈良・平安時代の遺跡とされ、木簡、墨書き土器、円面鏡などの出土から、当時の官衙に関連する集落跡と推測されている。また、大浦遺跡群からは延暦23(804)年の記述のある漆紙文書(具注曆)や布目瓦、円面鏡などが出土し、ここを置賜郡衙とする見解もある。また、古志田東遺跡からは、多数の木簡が出土している。

当遺跡周辺にも、寶領塚古墳、窪田古墳、外ノ内遺跡、南原遺跡、堂ノ下遺跡など多くの遺跡の存在が確認されている。

本遺跡が所在する置賜地方は、「日本書記」持統3(689)年の「陸奥国優賜墨郡」が史料的に初見である。さらに和銅5年(712)年出羽国建国の中に「置賜郡」の名が見られ、陸奥国から分割され「出羽国置賜郡」が誕生したことが読み取れる。

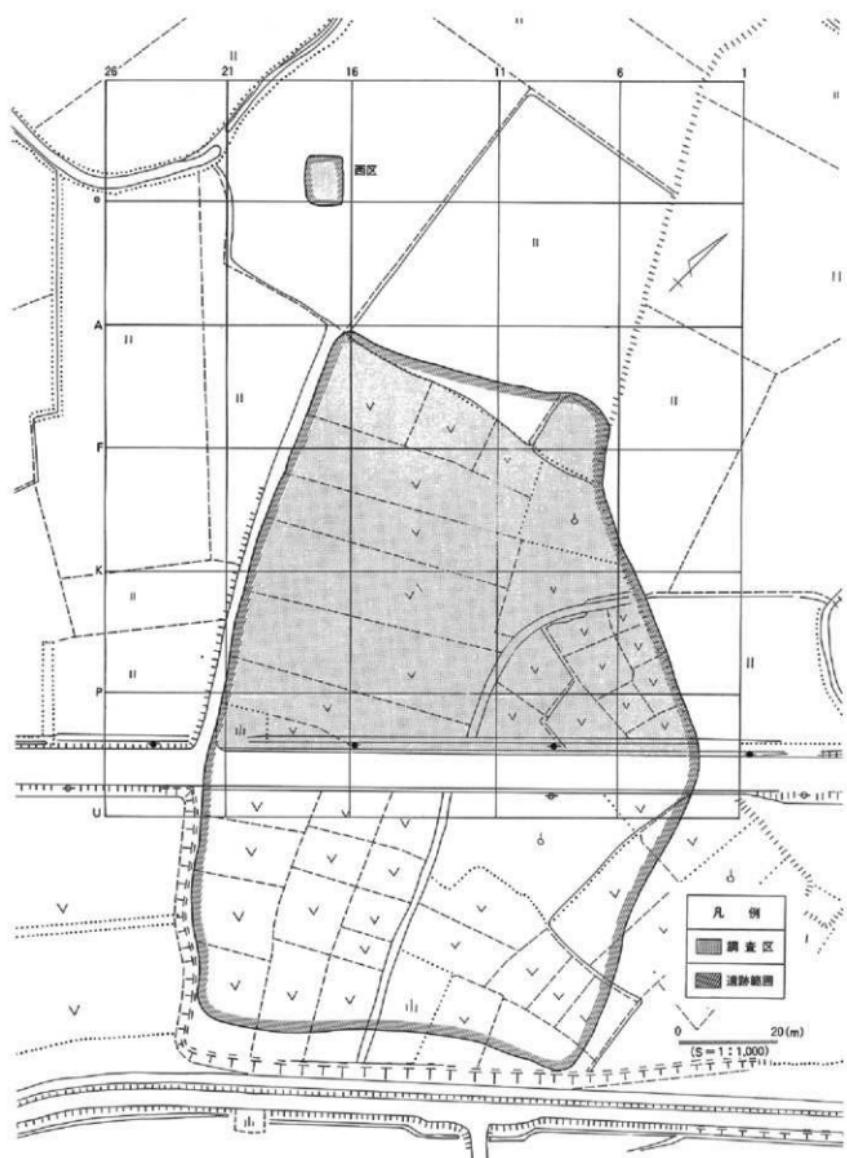
市南部・西部の山地・山麓には縄文時代の遺跡が数多く確認されているが、時代が下がるにつれて平地でも多くの遺跡が見られるようになる。このことから、稲作など食料事情の変化に伴い人々の生活の場も次第に変わってきたことがうかがえる。



- 1 中里遺跡 2 霊田古墳 3 堂ノ下遺跡 4 南原遺跡 5 八種塚古墳 6 寶鏡塚古墳 7 下新田c遺跡  
 8 下新田b遺跡 9 下新田a遺跡 10 保呂羽堂遺跡 11 笠原遺跡 12 中川原遺跡 13 上新田b遺跡 14 戸塚山幼稚園b遺跡  
 15 番入北古墳群 16 戸塚山石切跡 17 武坂南古墳群 18 山原古墳群 19 戸塚山北古墳 20 上浅川堤人a古墳群 21 上浅川堤人b古墳群  
 22 番入鰐石塚a古墳 23 番入鰐石塚b古墳 24 山崎古墳群 25 上浅川a遺跡 26 上浅川b遺跡 27 菊の森遺跡 28 雁星遺跡  
 29 堂田遺跡 30 番合西古墳群 31 番合東古墳群 32 番合遺跡 33 楠師山古墳群 34 上新田c遺跡 35 皇太神社古墳群  
 36 西光寺古墳群 37 西の星敷遺跡 38 上新田a遺跡 39 大浦d遺跡 40 大浦c遺跡 41 大浦b遺跡 42 大浦a遺跡  
 43 西町田下遺跡 44 猿野横道跡 45 堀塚遺跡

国土地理院発行 1:25,000地形図「米沢北部」「鶴野目」を使用

第1図 遺跡位置図



第2図 調査区概要図

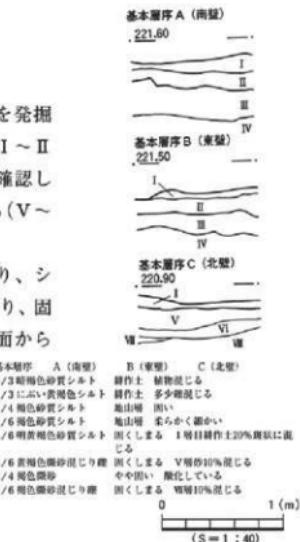
### III 遺跡の概観

#### 1 基本層序

今回の調査では、市道を境に東西に広がる遺跡範囲の西側を発掘調査した。調査区一帯は、畑作などにより削平を受けている(I～II層)。基本層序は、調査区の南壁(A)、東壁(B)、北壁(C)で確認した。基本層序Cについては、褐色疊層による擾乱が確認できる(V～VII層)。

基本的な層序は4層で、I～II層は、耕作土で植物が混じり、シルトあるいは砂質シルトである。III層から褐色砂質シルトとなり、固い地山層となる。その下のIV層も同様に地山層である。表土面から概ね20cm程で遺構確認面に到達する。なお包含層は、確認できなかった。

また、褐色ないし黄褐色砂が、北壁の第2層(V層)から堆積している。調査区北東部の一部のみに、このような擾乱層が観察できた。なお、大部分の遺構は北東部を除いた面で検出された。



第3図 基本層序

#### 2 遺構と遺物の分布

今回の調査で検出された主な遺構は、竪穴住居跡9棟、掘立柱建物跡2棟、井戸跡4基、土坑跡137基、溝跡152条、性格不明遺構57基、柱穴1,940基であった。これらの遺構は、時期的に古墳時代と奈良・平安時代、中世以降に大別される。

古墳時代は、本遺構の主体を占めている。古墳時代の竪穴住居跡は、S T1571・2019・2053・2054・2105・2500である。特にS T1571・2053・2054・2105には、カマドまたは炉跡を中心に多数の古式土器が出土している。住居等の切り合いから2時期以上の変遷が確認できるが土器編年からは大幅な時期差は認められず、概ね5世紀末～6世紀初段階のものと思われる。

また、調査期間終了間際に立会により確認できた100m<sup>2</sup>ほどの西区でも古墳時代の土坑が検出され、5世紀末の壺や壺が出土している。また、調査区北側100mほど離れた熊野神社周辺(北区)からも、わずかに土器片を確認し表面採取した。6世紀初頭の土器と考えられる。

奈良・平安時代は、S T689や西区 S E2608・S X2627などから、主に平安時代中葉以降の遺物が出土している。

中世では、S B2506の柱穴から青磁碗の破片が出土した。また、S D1182からは、中世陶器も出土している。全体的にこの時期の遺構・遺物数が少ないため、中世集落の様相はつかめない状況である。

本遺跡の主体となる時期は古墳時代中・後期であり、同時期で近隣に位置する南原遺跡や窪田古墳との関係を考える必要がある。

遺跡の概観



## IV 検出された遺構

### 1 壱穴住居跡

本調査区では、古墳時代の壹穴住居跡6棟と、平安時代の壹穴住居跡1棟、時期不明の壹穴住居跡が2棟検出された。以下、壹穴住居跡について概観していくこととする。

#### S T 689壹穴住居跡（第5図）

調査区西側、J-14Gに主体を置く。西側隅をS D27に切られる。平面形は、真四角形で長軸3.8m(南北)、短軸3.3m(東西)を測る。主軸方位は南北軸でN-165°-Sである。壁の立ち上がりは、上層が畑作による削平を受けているが、ほぼ垂直である。

また、床面には、周溝状の堀込みが見られる。主柱穴となる柱穴が4本確認され、径25cm前後で深さ5~10cmを測る。カマドは南壁で検出され、長さ75cm、幅92cmで浅く掘込まれU字状を呈し、袖部も良好な状態で残存している。煙道部の貼り出しは確認できなかった。住居中央部にカマドを壊して廃棄したとおもわれるカマド石が出土している。

出土遺物は、カマド周辺からやや垂直に立ち上がる須恵器坏口縁部、木葉痕のある土師器壺底部が出土している。

#### S T 1571・2500壹穴住居跡（第6図）

調査区東側P-7Gに主体を置く。ST1571は、東側がやや狭くなる長方形で、長軸4.5m(東西)、短軸3.75m(南北)を測る。長軸方位はN-90°-Wである。住居の覆土は、黒色土で浅い。北東からと南東に床面が傾斜している。また、住居跡の東寄りに地床炉が確認された。長軸105cm(東西)、短軸70cm(南北)を測り、覆土は褐色土で遺物を含んでいる。炉内には、焼土・木炭・遺物を多く含む。EP1から土器片1点が出土している。

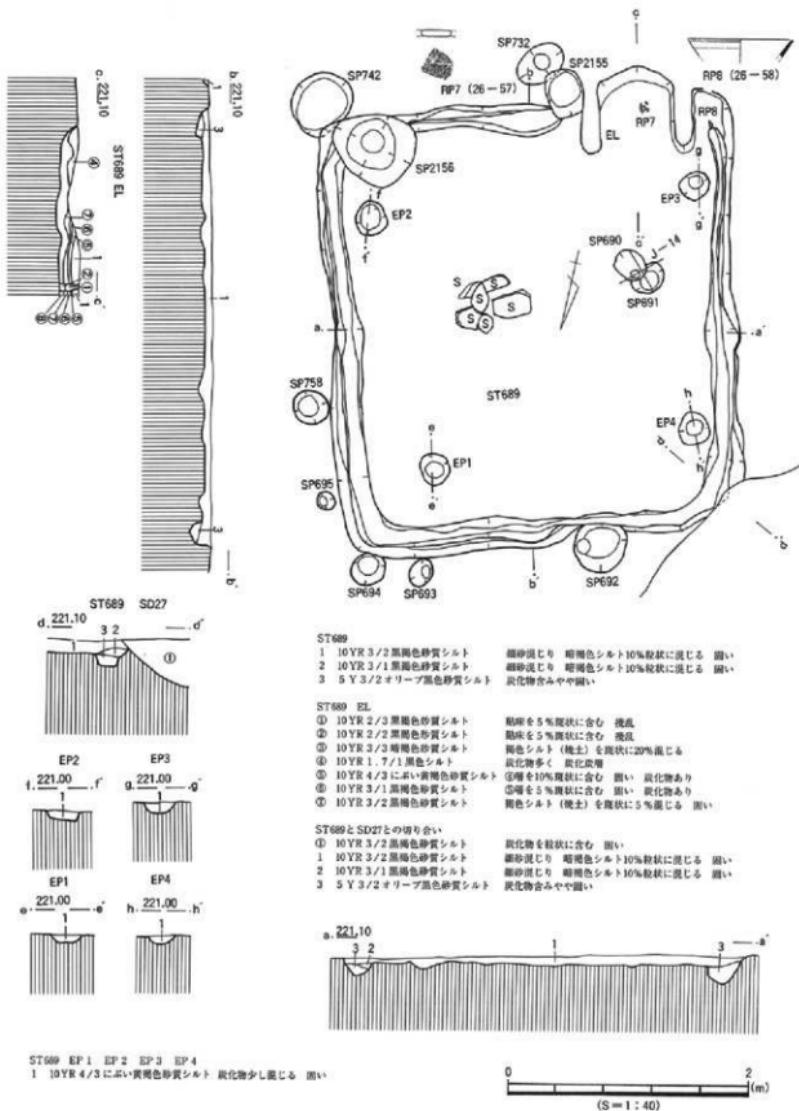
ST2500は、住居中心部をST1571から切られており、西側をS D1182から切られている。残存状態が悪く、床面まで1~2cmの覆土であったが、主柱穴1基のほか北東隅に周溝も検出されている。柱穴の平面形は円形で径30cm程度である。住居跡の西側から古式土師器が出土している。

#### S T 2019・2053壹穴住居跡（第7図）

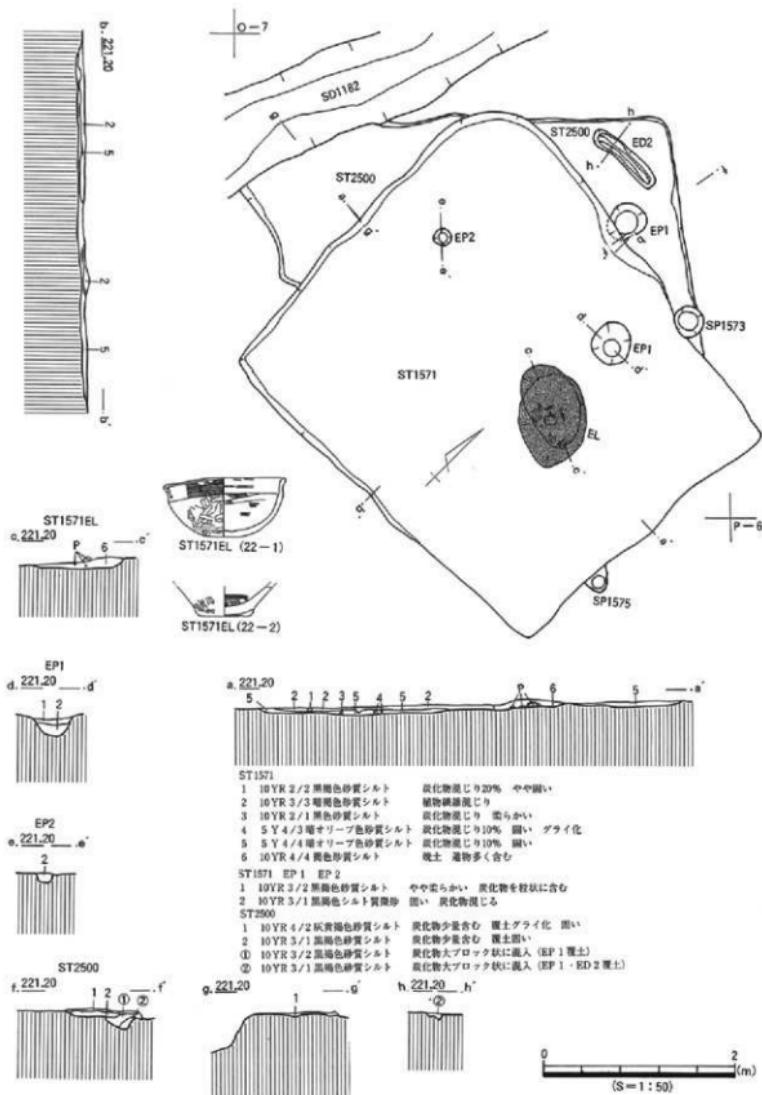
調査区南西部F-17~G-18Gに主体を置く。ST2053は南北に長い長方形で、南側が農道に切られている。短軸4.5m(東西)で、長軸方位はN-45°-Eを測る。主柱穴ではない柱穴が5基、貯蔵穴が2基、周溝が北東隅に検出された。壁の立ち上がりがやや垂直で、床面は疊を少し含み固くしまっている。覆土は下層がグライ化している。

住居跡のやや西壁寄りに焼土塊が確認され、長軸110cm(東西)、短軸70cm(南北)の規模で木炭粒と遺物を含んだ焼土層が堆積している。遺物は、焼土塊と貯蔵穴(E K 4)から集中的に出土している。焼土塊はよく焼けており、西壁に近いためカマド燃焼部の可能性もある。

ST2019は北東隅を残して、南側を農道に、西側をST2053に切られている。住居の規模は北東隅のみの検出のため不明である。遺物も出土しているが、体部破片が数点出土するのみである。



第5図 ST 689豊穴住居跡



第6図 ST 1571・2500竪穴住居跡

#### S T 2035竪穴住居跡(第8図)

調査区西側F-15Gに主体を置く。平面形は、ほぼ真四角形で長軸3.3m(東西)、短軸2.85m(南北)を測る。確認面から30cmほど掘込み、壁は垂直に立ち上がる。覆土は床面に礫を多く含んでいる。長軸方位はN-30°-Wである。

#### S T 2054竪穴住居跡(第9・10図)

調査区西側E-13Gに主体を置く。平面形は、南北に長い隅丸長方形で長軸6.5m(南北)、短軸5m(東西)を測る。主軸方位はN-135°-Eである。覆土は、上層の畑作による削平があったが、暗褐色土もしくは、にぶい黄褐色砂質土である。南側・北側は後世の攪乱等で切られている。

主柱穴となる柱穴が住居跡西寄りに2基確認され、E P 1はアトリや掘り方がしっかりと確認できた。カマドは、東壁やや北寄りに置かれ、長さ105cm、幅70cmで袖部の長さは100cmである。煙道部は未検出であるが、遺存状態は良好であった。燃焼部は、にぶい黄褐色土を多く含み、中央に煮沸用の瓶や支脚も出土している。カマド北側に周溝風の溝が若干検出される。

遺物は、特にカマド周辺から出土しており(第10図)、古式土師器の壺・甕・瓶などが出土している。

#### S T 2100竪穴住居跡(第11図)

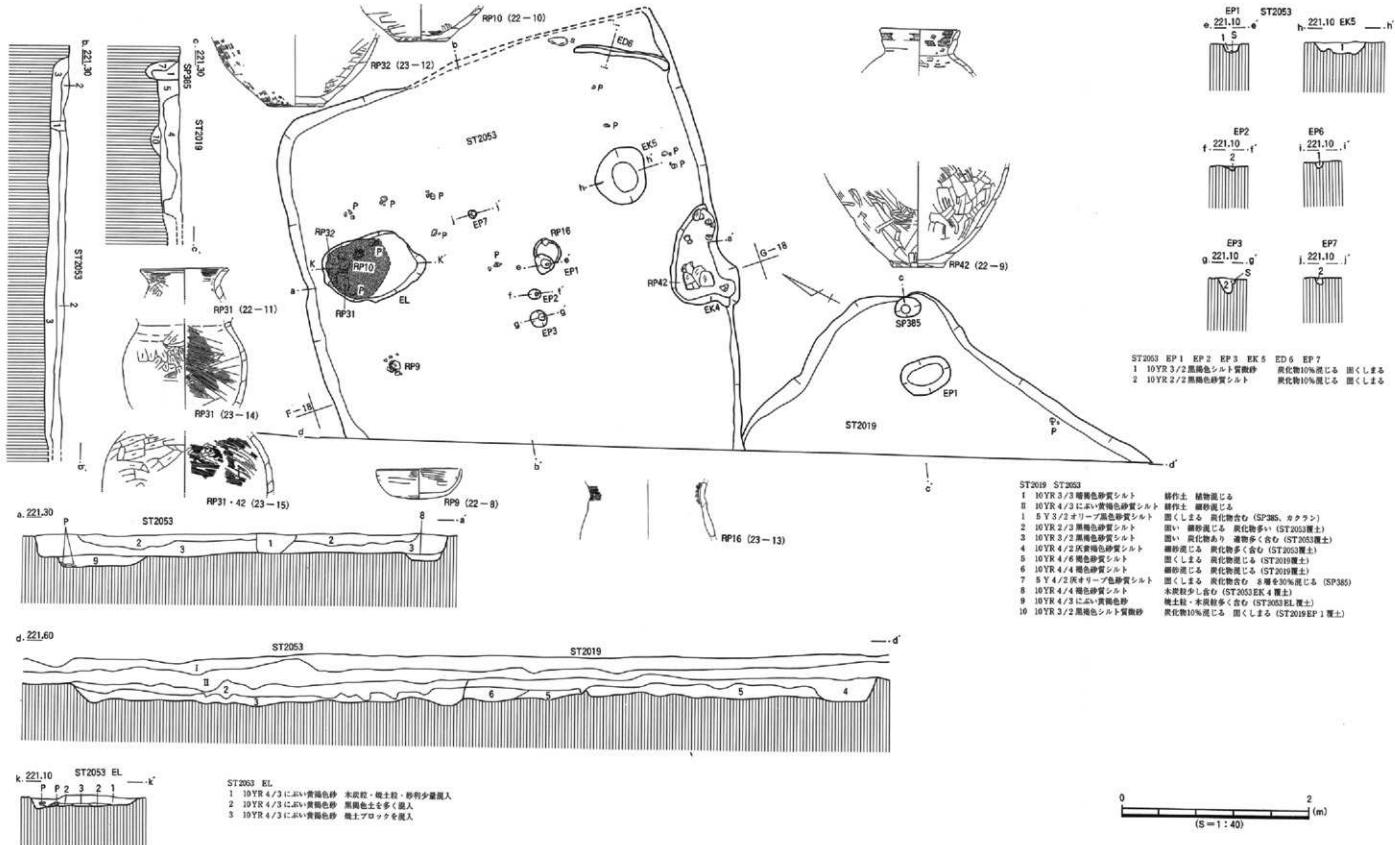
調査区西側D-15Gに主体を置く。平面形は、やや扁平な長方形を呈している。規模は、長軸4.15m(東西)、短軸2.9m(南北)である。長軸方位は、N-35°-Wである。主柱穴ではない柱穴が、住居跡やや中央寄りに1基検出している。出土した遺物は、須恵器甕の体部1点のみである。

#### S T 2105竪穴住居跡(第12図)

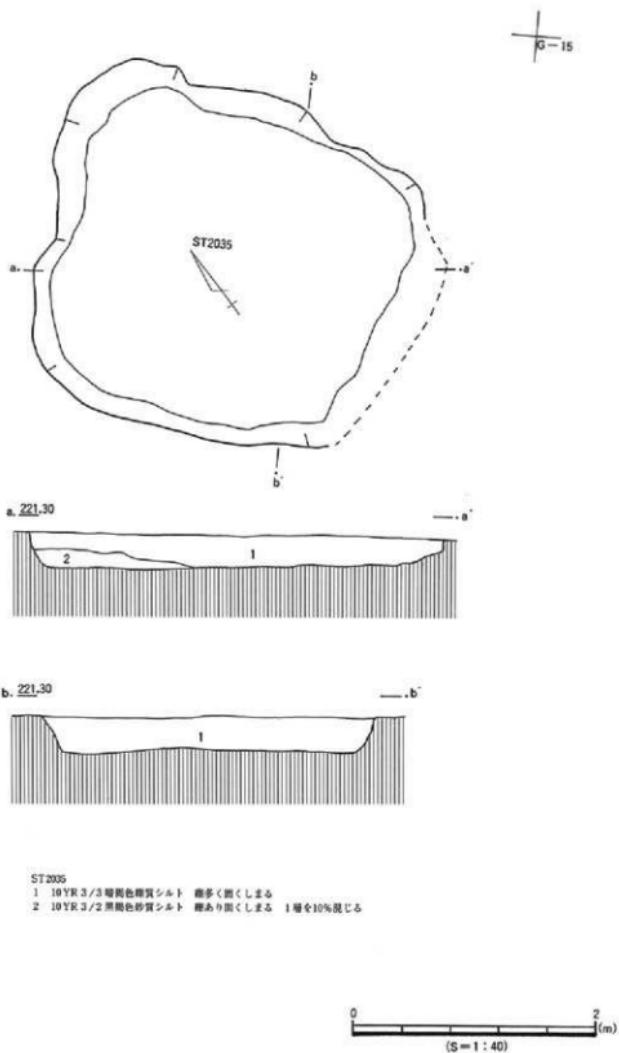
調査区西側C-13Gに主体を置く。平面形はほぼ真四角形で、長軸5.8m(東西)、短軸5.6m(南北)の規模である。主軸方位は、N-135°-Eである。壁は確認面から5~10cm掘込み、やや斜めに立ち上がる。床面下層に、黒色土ないし黄褐色砂質土の貼床が敷かれている。主柱穴ではないが、5本の柱穴が確認され、径10~35cm、深さ5~10cmを測る。いずれも浅い掘込みで、位置もやや中央寄りである。

南東壁やや北寄りにカマドを設置している。燃焼部は、径ほぼ50cmほどの円形で、大型甕が出土し、その下に若干の礫が入る。焼土層に多量に骨片を含んでいる。また、住居跡やや北東寄りに貯蔵穴(E K 2)が設置されており、古墳時代の遺物が多く出土した。カマド周辺にも貯蔵穴(E K 1)が設置されているが、土器片が数点出土するのみであった。遺物は、カマド周辺や貯蔵穴(E K 2)から多量に出土している。いずれも古式土師器で、壺・甕・鉢などが出土している。特に、カマド上層に平底甕が完形で出土している。出土土器の割合として、壺の出土量が多い特徴がある。

また、住居跡北西側を溝状のS X2127から切られている。遺構そのものは、調査区西側の調査区外に延びている。深さは確認面から20cmを掘込み、覆土は黒褐色土で微砂を含むシルトである。遺物は、須恵器甕小片が多量に出土している。

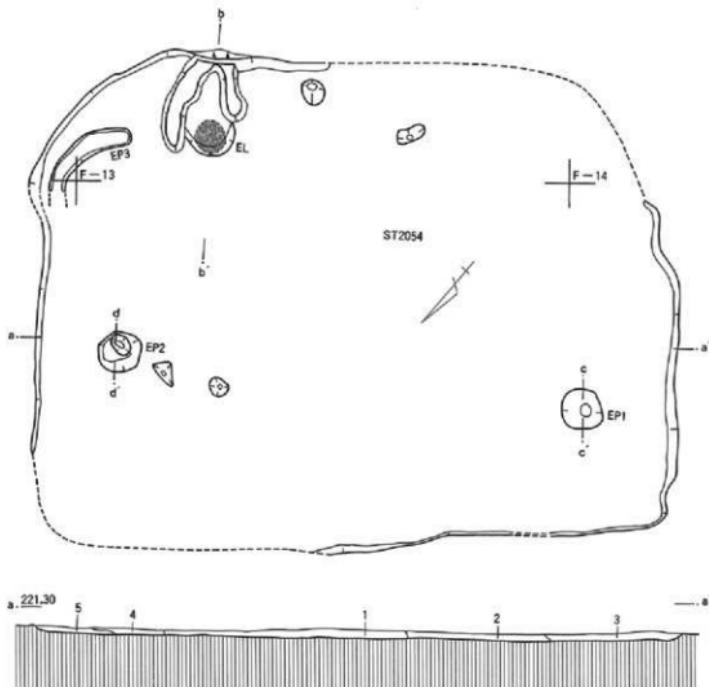


第7図 ST2019・2053竪穴住居跡



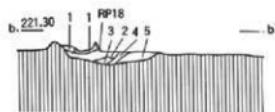
第8図 S T 2035竪穴住居跡

検出された遺構



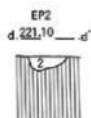
ST 2054

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 1 10 YR 3/3 黄褐色砂質土    | ローム風           |
| 2 10 YR 4/3 にせい黄褐色砂質土 |                |
| 3 10 YR 4/3 にせい黄褐色砂質土 |                |
| 4 10 YR 3/1 黑褐色砂質土    | 小石多量に混入        |
| 5 10 YR 3/3 黄褐色砂質土    | 5 mmほどの小石多量に混入 |



ST 2054 EL

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1 10 YR 4/3 にせい黄褐色砂質土 | 黒土少量混入          |
| 2 10 YR 7/1 黑褐色砂質土    | 礫砂粒(砂利)混入       |
| 3 10 YR 4/3 にせい黄褐色砂質土 | 灰土粒少量、白色砂質土多く混入 |
| 4 10 YR 4/3 にせい黄褐色砂質土 | 灰土少量混入          |
| 5 10 YR 4/3 にせい黄褐色砂質土 | 灰土・灰土ブロック多量に混入  |

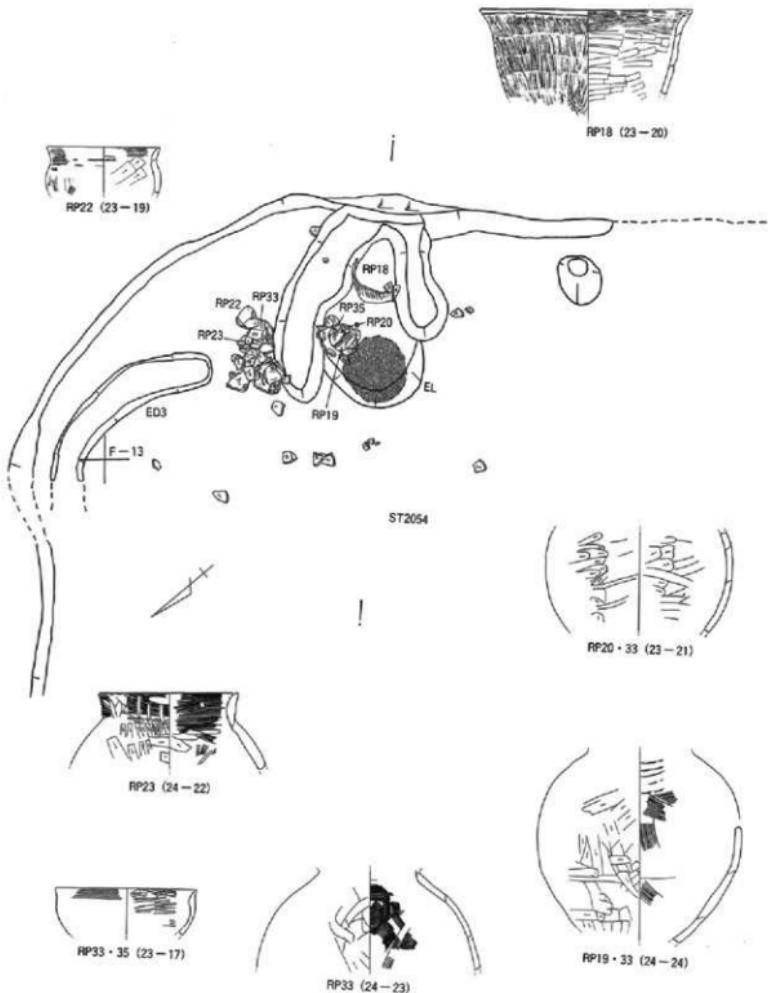


ST 2054 EP 1 EP 2

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1 10 YR 3/2 黑褐色砂質シルト     | 地山砂質土に10%混じる やや固くしまる |
| 2 10 YR 4/3 にせい黄褐色シルト質泥炭 | 黒褐色シルトを厚状に混じる 固くしまる  |

0 2  
(S = 1:50) (m)

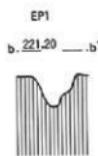
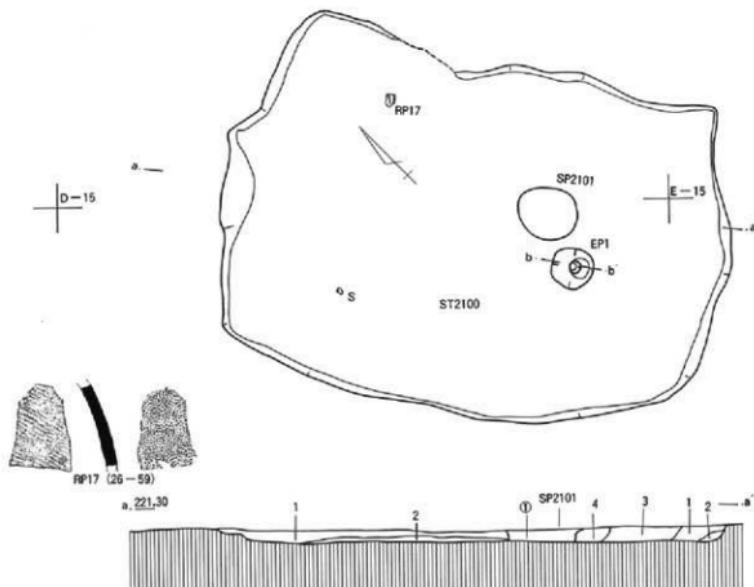
第9図 S T 2054竪穴住居跡



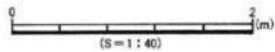
0 1 (m)  
(S = 1 : 25)

第10図 S T 2054遺物出土状況

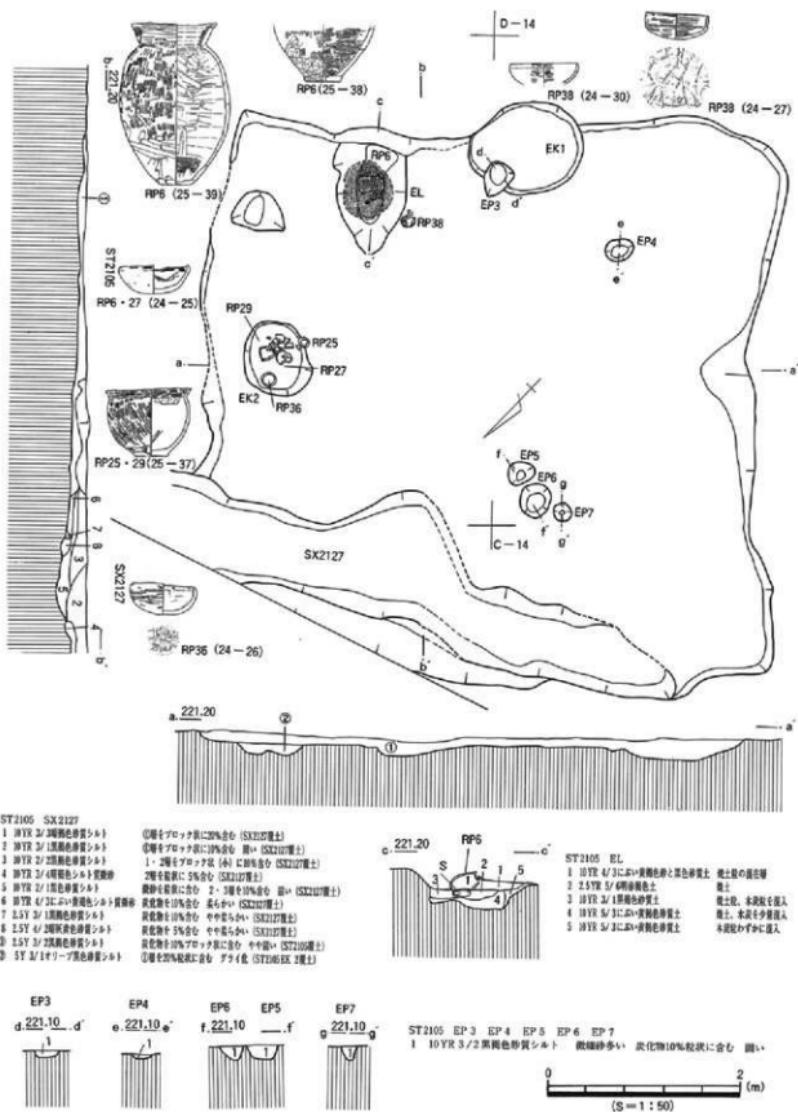
検出された遺構



ST2100  
 1 10 YR 3 / 2 黒褐色砂質土  
 2 10 YR 4 / 3 に近い黄褐色砂質土  
 3 10 YR 4 / 3 に近い黄褐色砂質土  
 ④ 10 YR 4 / 3 に近い黄褐色シルト (SP2101層土)



第11図 S T 2100竪穴住居跡



第12図 S T 2105堅穴住居跡

## 2 挖立柱建物跡

今回の調査では、古墳時代の建物跡1棟(SB2501)と中世の建物跡1棟(SB2506)が検出された。以下、掘立柱建物跡について概観していく。

### S B 2501掘立柱建物跡(第13図)

調査区西側H-14Gに主体を置く。北東側の柱穴については、後世の擾乱によって壊されている。梁行3.2m、桁行4.6mを測る2×3間の建物跡で、長軸方位がN-50°-Eである。柱穴の径は、20~40cmほどで円形を呈している。出土遺物に関しては、E B 339から古墳時代の土師器壙が出土している。

### S B 2506掘立柱建物跡(第13図)

調査区南側N-16Gに主体を置く。E B 1502がやや建物跡中央に寄る。梁行3.1m、桁行3.3mを測る2×2間の建物跡で、主軸方位がN-10°-Wである。柱穴の径は、25~50cmで、深さは5~25cmを測る。遺物は、E B 1502から中世の青磁碗の破片1点が出土している。

## 3 井戸跡

### S E 233井戸跡(第16図)

調査区西側G-14Gに主体を置く。長径が210cm(東西)、短径が195cm(南北)を測り、深さは確認面から110cmを測る。素掘りの井戸跡で、断面形は開口部が広く、掘り方の途中で若干の段を形成している。遺物は、土師器の小片が数点出土している。遺構の時期は不明である。

### S E 1388井戸跡(第14図)

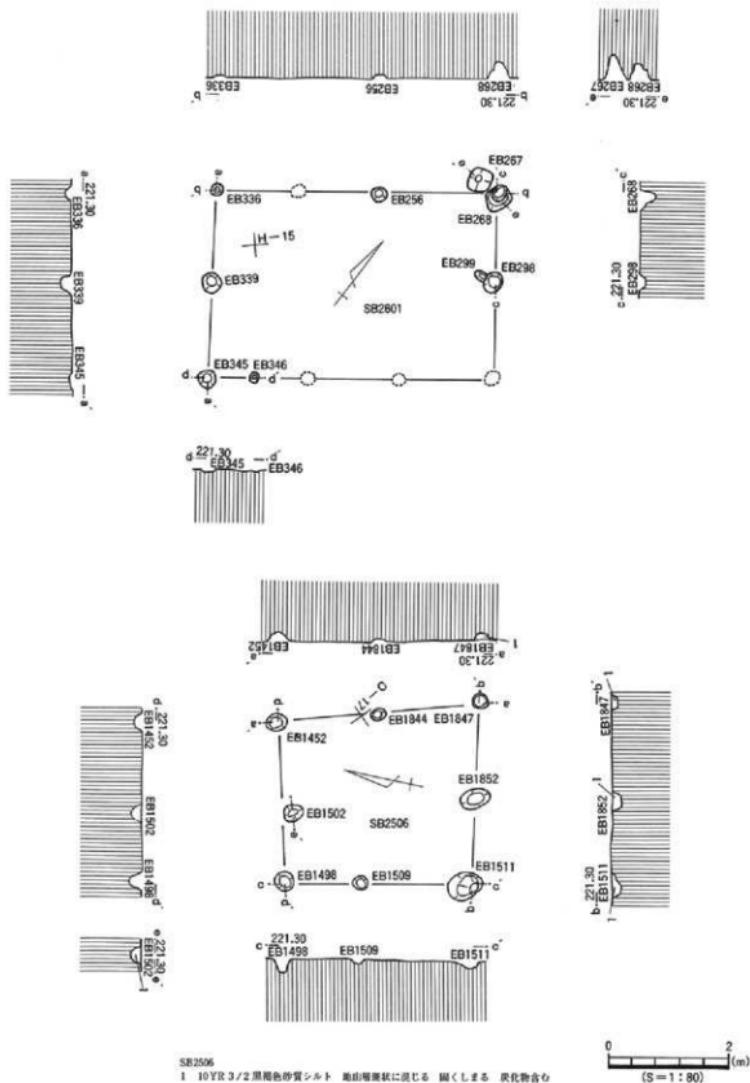
調査区南側N-15Gに主体を置く。長径が530cm(南北)、短径が420cm(東西)を測り、深さは確認面から165cmを測る。素掘りの井戸で、断面形は開口部に向かって緩やかに立ち上がっている。平面形は、南西側がやや張り出している楕円形である。覆土下層に黒褐色粘土質土を含み、底面に礫質土が広がり、水が湧いてくる。遺物は、須恵器壺の小片、砥石が出土している。

### S E 1529井戸跡(第15図)

調査区東側M-18Gに主体を置く。長径が630cm(南北)、短径が480cm(東西)を測り、深さは確認面から150cmを測る。素掘りの井戸で、断面形は底面が狭く壁が緩やかに立ち上がっている。平面形は南東側がやや張り出している。覆土は、上層がやや暗褐色で微砂を多く含んでおり、下層は黒褐色粘土質土で礫を多く含んでいる。遺物は、須恵器壺の小片が数点のみ出土している。

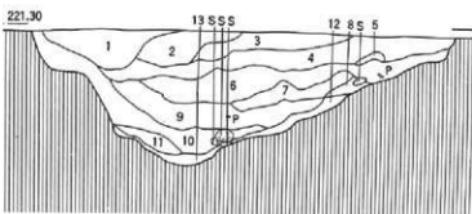
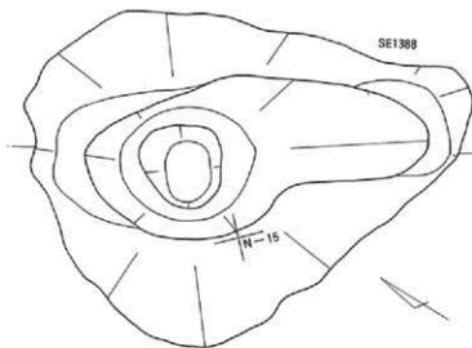
### 西区S E 2608井戸跡(第16図)

調査区西区e-16Gに主体を置く。平面形がほぼ円形で、径180cmを測る。素掘りの井戸で断面形は開口部が広く、掘り方途中で若干の段を形成している。覆土は、6層で全体的に黒色で粘土質である。遺物が多量に含まれており、この井戸のみで2箱分が出土している。遺物はいずれも平安時代の遺物で赤焼土器・内黒土器・黒色土器壙である。底径が小さく、特に高台付近の底部に菊花状ナデツケの調整を行なっている。



I 10YR 3/2 黒褐色砂質シート 海山層面状に混じる 岩くしまる 硫化物含む

第13図 S B 2501・2506掘立柱建物跡

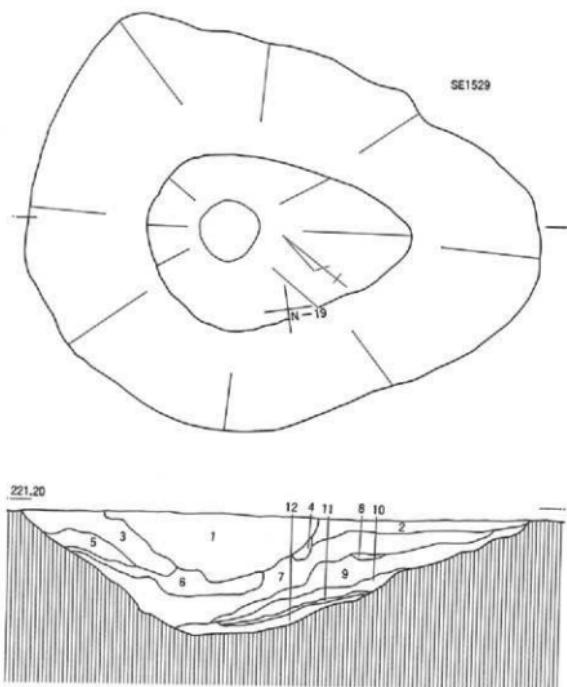


SE1388

1 10YR 3/2 黒褐色砂質シルト	細砂混じる 炭化物少し混じる	地山層ブロック状に20%含む
2 10YR 3/1 黒褐色砂質シルト	細砂混じる 炭化物少し混じる	地山層ブロック状に20%含む
3 10YR 2/3 黒褐色砂質シルト	細砂混じる 炭化物少し混じる	地山層ブロック状に20%含む
4 10YR 3/3 黒褐色砂質シルト	細砂混じる 炭化物少し混じる	地山層ブロック状に20%含む
5 10YR 3/4 黒褐色シルト粘土	地山層ブロック状に20%含む	
6 10YR 3/2 黒褐色シルト粘土	炭化物少し含む	
7 10YR 3/2 砂褐色熱土質四輪砂	炭化物少し含む	地山層20%ブロック状に含む
8 10YR 3/2 黑褐色粘土質四輪砂	細砂混じる 炭化物少し含む	地山層20%ブロック状に含む
9 10YR 3/4 砂褐色粘土質粘土	細砂混じる 炭化物少し含む	ブロック状に地山層30%、黒褐色粘土10%含む
10 10YR 4/4 黑褐色粘土質シルト	細砂混じる 炭化物少し含む	ブロック状に地山層30%、黒褐色粘土10%含む
11 10YR 2/2 黑褐色粘土質シルト	細砂混じる 炭化物少し含む	ブロック状に地山層30%、黒褐色粘土10%含む
12 10YR 2/3 黑褐色粘土質シルト	細砂混じる 炭化物少し含む	ブロック状に地山層30%、黒褐色粘土10%含む
13 10YR 3/3 黑褐色粘土	炭化物少し含む	ブロック状に地山層30%、黒褐色粘土10%含む

0 2 (m)  
(S = 1 : 60)

第14図 S E1388井戸跡

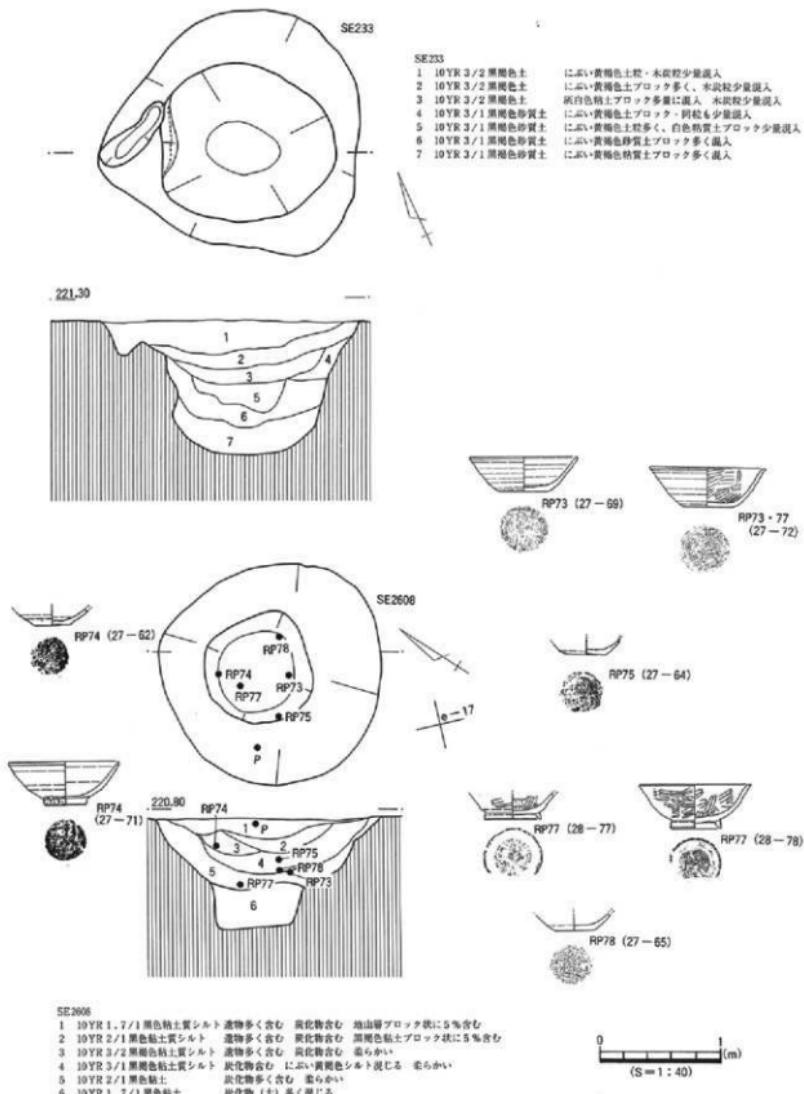


- SE1529
- 1 16YR 3/2 黒褐色シルト混じり微砂 に多い黄褐色微砂5%粒状に混じる 塗化物少し含む
  - 2 16YR 3/3 稲褐色シルト混じり微砂 に多い黄褐色微砂10%プロック状に混じる 塗化物少し含む
  - 3 19YR 3/3 稲褐色シルト質微砂 に多い黄褐色微砂10%プロック状に混じる 塗化物少し含む
  - 4 10YR 4/2 灰黄褐色シルト質微砂 に多い黄褐色微砂20%プロック状に混じる 塗化物少し含む
  - 5 10YR 3/4 稲褐色シルト質微砂 に多い黄褐色微砂10%プロック状に混じる 塗化物少し含む
  - 6 10YR 2/2 黑褐色粘土質粘土 に多い黄褐色微砂5%粒状に混じる 塗化物少し含む
  - 7 10YR 3/3 稲褐色粘土質砂 に多い黄褐色微砂5%粒状に混じる 塗化物少し含む
  - 8 10YR 4/3 に多い黄褐色シルト質微砂 7層を粒状:20%混じる
  - 9 10YR 3/2 黑褐色粘土質砂 産を少し混じる に多い黄褐色微砂5%プロック状に含む
  - 10 10YR 2/3 黑褐色粘土質微砂 産を少し混じる に多い黄褐色微砂5%プロック状に含む 塗化物少し含む
  - 11 10YR 3/3 黑褐色微砂シルト 12層を混じる に多い黄褐色微砂5%粒状に含む 塗化物少し含む
  - 12 10YR 3/2 黑褐色粘土質シルト に多い黄褐色微砂5%粒状に含む



第15図 S E 1529井戸跡

検出された遺構



第16図 S E 233・2608井戸跡

#### 4 土坑跡(第17図)

##### S K 345土坑跡

調査区南側H-16Gに主体を置く。平面形はほぼ円形で、径120cmを測る。深さが、確認面から20cmとやや浅い。断面形は、やや緩やかな立ち上がりで北側が少し窪んでいる。層序は2層で下層が黒褐色土で炭化粒が混じる。遺物は、土師器小片が2点のみ出土している。

##### S K 814土坑跡

調査区中央部J-15Gに主体を置く。平面形は、やや北側に張り出した不定形で、長径130cm(南北)、短径115cm(東西)を測る。深さは確認面から50cmあり、断面形は南側が極端に窪んでいる。遺物は、土師器小片が1点のみ出土している。

##### S K 1819土坑跡

調査区南側O-16Gに主体を置く。平面形は、やや東に張り出した梢円形で、長径190cm(南北)、短径180cm(東西)を測る。深さは確認面から30cmとやや浅く、断面形はやや緩やかな立ち上がりで、底は平坦である。覆土に多量に礫を含んでいる。遺物は、須恵器甕小片が数点出土している。

##### S K 1877土坑跡

調査区南側O-8Gに主体を置き、S P 1878柱穴に切られる。平面形は、ほぼ円形で径90cmを測る。断面形は緩やかに立ち上がり、覆土はオリーブ黒色土で固くしまっている。遺物は、須恵器甕小片が1点のみ出土している。

##### S K 2072土坑跡

調査区南西側D-16Gに主体を置く。平面形は、ほぼ円形で径130cmを測る。断面形はやや垂直に立ち上がり、底は平坦である。遺物は、土師器小片が4点のみで器形など不明である。

#### 5 溝跡

##### S D 27溝跡(第18図)

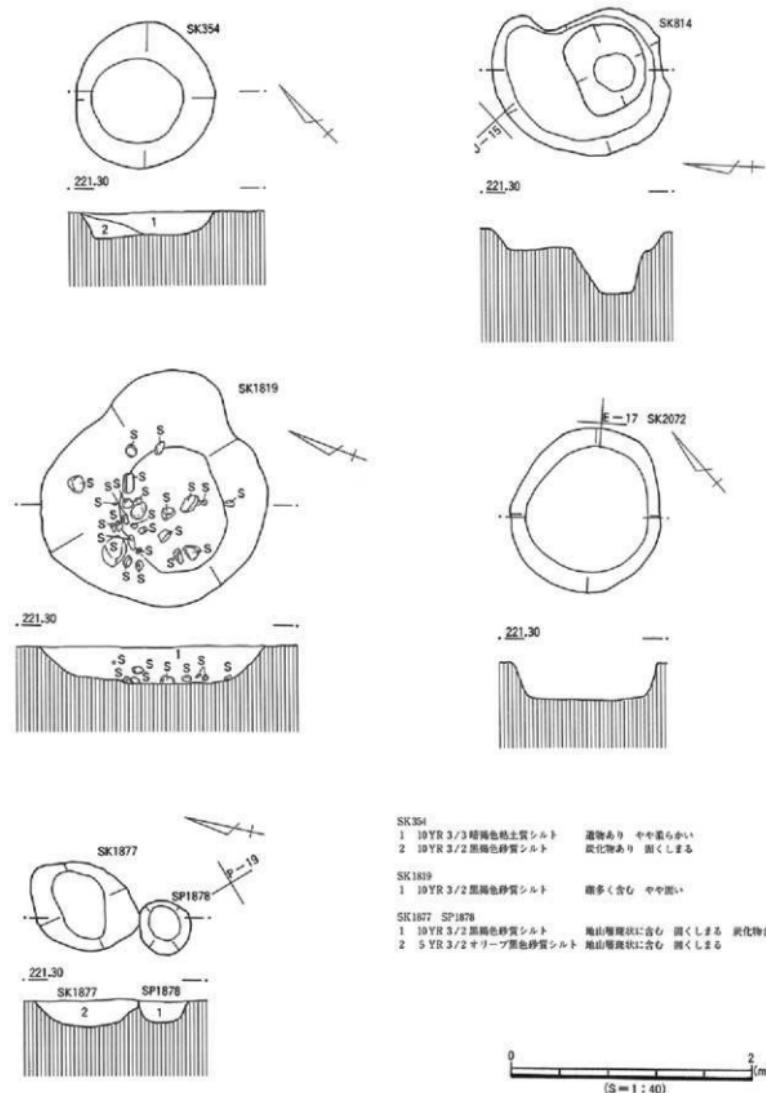
調査区中央を南北に貫流しており、H-5～F-19Gで検出された。S T 689西側隅を切っている。幅150cm～300cm、深さ75cmを測る。断面形はやや緩やかに立ち上がり、途中に段を形成している。覆土は、1層目黒褐色土で固く、2・3層目は暗褐色土でやや柔らかく、4層目は褐色土でグライ化している。遺物は、1層目に赤焼土器、須恵器小片が出土しており、最下層4層目からは古墳時代後期の高坏が出土している。

##### S D 1182・1719溝跡(第18図)

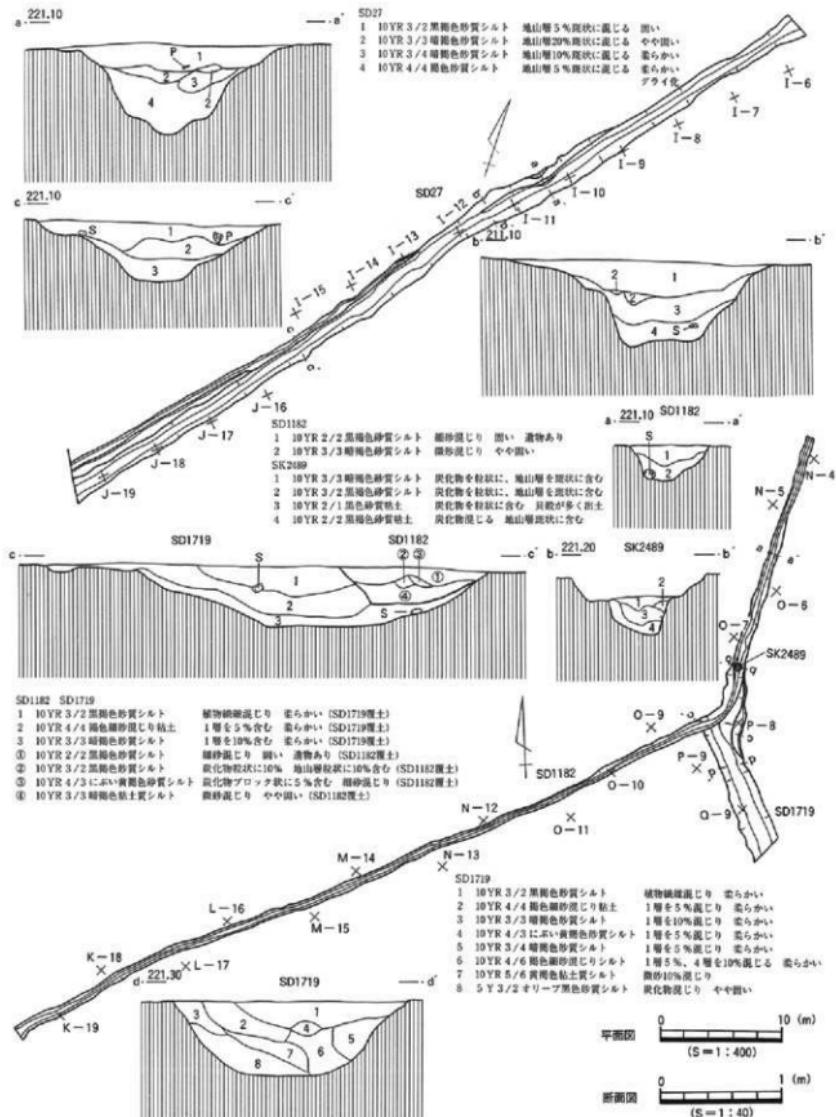
S D 1182は調査区東側M-3～J-19Gに位置する。南北方向を貫流し、やや東側に鈍角に曲がり S D 1719を切る。幅50～150cm、深さ30cmを測る。断面形は緩やかで、底面に礫が混じる。遺物は、中世陶器などが出土している。また、遺構内北側にSK 2489が検出され、覆土内に大量の貝殻が出土した。

S D 1719は、東側から北側へ延びて、S D 1182に切られる。幅250～350cmで、深さ60cmを測る。断面形はレンズ状である。遺物は、赤焼土器小片が数点のみ出土している。

検出された遺構



第17図 SK 土坑跡



第18図 S D 27 - 1182 - 1719溝跡

#### S D 1788溝跡(第19図)

調査区南側P-14~Q-15Gに位置し、区画溝であるS D 1790を南北に切っている。幅75~225cm、深さ20cmを測り、断面形は緩やかに立ち上がり、薄く堆積している。覆土は1層で炭化物を含む黒褐色砂質シルトである。

#### S D 1790溝跡(第19図)

調査区南側Q-13~Q-18Gに位置し、北側でS D 1788に切られ、南側でS D 2126・1905を切っている。幅60~125cm、深さ65cmを測り、西側に張り出すようにL字形に屈曲する。東側に向けて区画溝を形成していたと思われる。断面形はやや垂直に立ち上がり、底面は少し平坦になる。層序は3層で、覆土上層は黒褐色砂質土であるが、覆土下層になると粘土混じりの微砂になる。遺物は、土師器、須恵器甕の小片が数点出土するのみである。

#### S D 1905溝跡(第19図)

調査区南側P-18~P-20Gに位置し、北側でS D 2126・1790に切られ、南側でS D 1979に切られる。南北に延びている。幅70~100cmで、深さ10cmと浅い。断面形は、やや垂直に立ち上がり、底面は平坦でレンズ状になる。覆土は2層で、全体的に黒褐色土でやや固い。遺物は須恵器甕の小片が数点出土するのみである。

#### S D 1979溝跡(第19図)

調査区南側P-20~Q-20Gに位置し、S D 1905を切る。東西に直線的に延びる。幅は90~120cm、深さは確認面から30cmである。断面形は、やや緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は1層で、炭化物が少量混じる黒褐色シルトである。

#### S D 2126溝跡(第19図)

調査区南側P-16~Q-18Gに位置し、S D 1905を切り、S D 1790から切られる。東側からやや北側に曲がり、その先でV字に分かれる。幅40~200cmで、深さは確認面から5~10cmと浅い。壁は、やや緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は1層で、暗褐色砂質シルトである。遺物は、須恵器甕や土師器小片が数点出土するのみである。

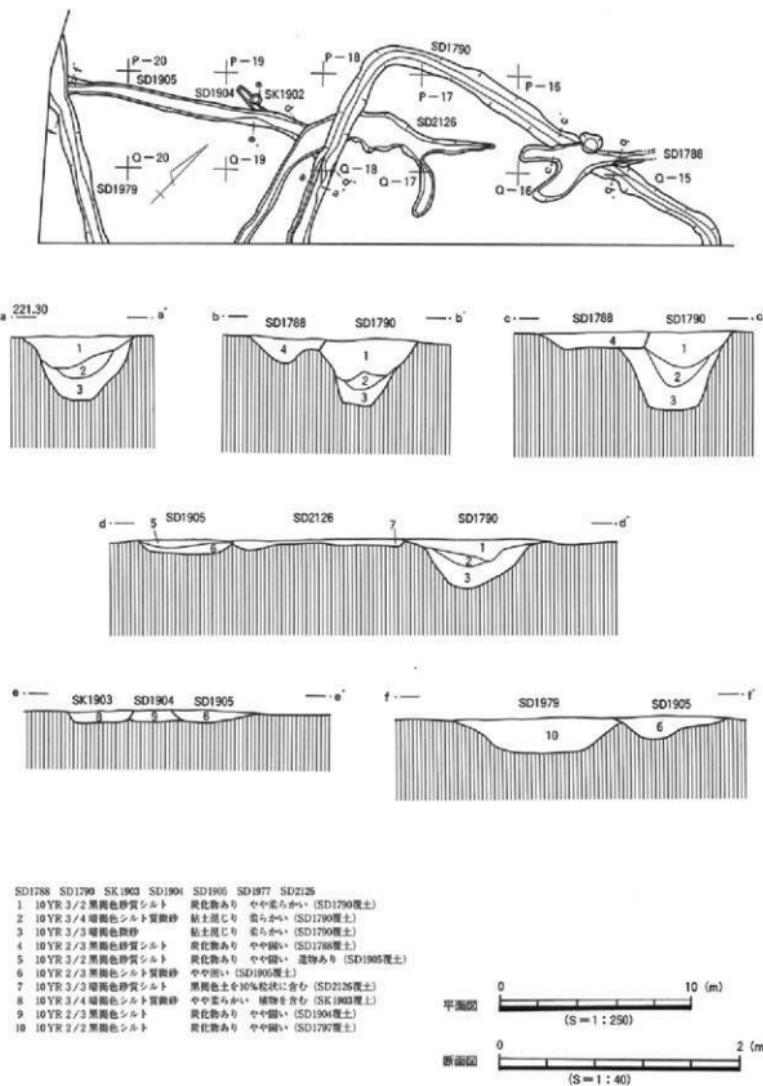
### 6 性格不明遺構

今回の調査では、57基の性格不明遺構が検出された。これらの遺構の中で、特筆するものみ概観する。

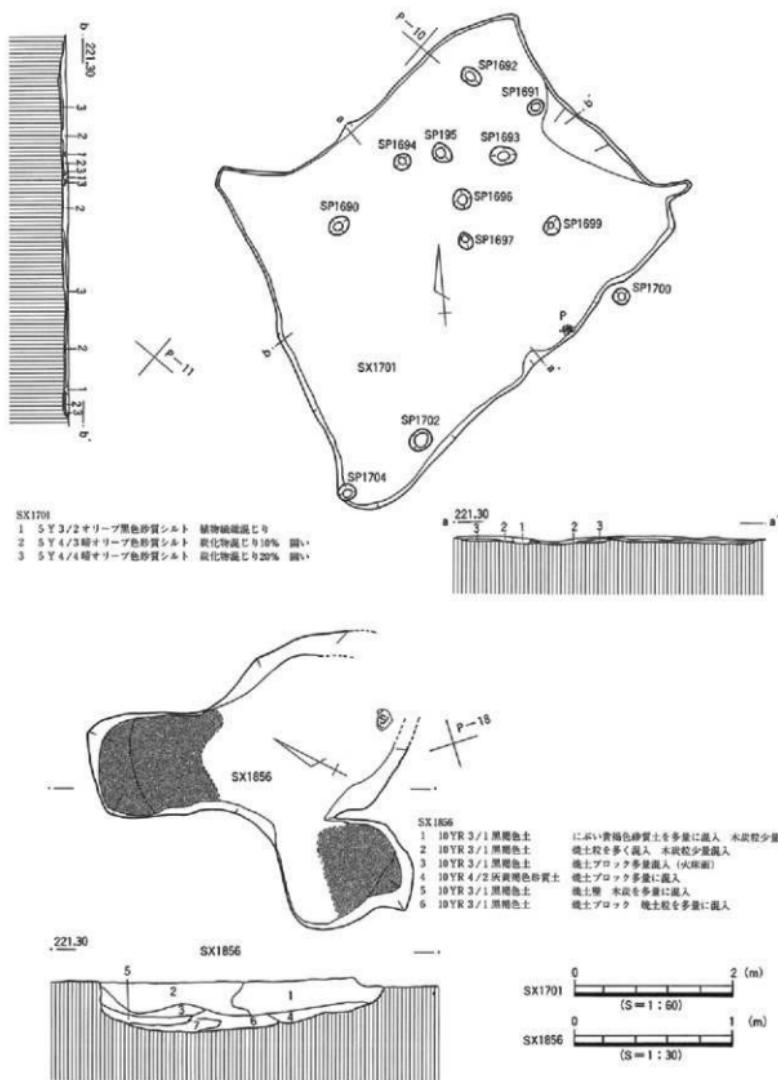
#### S X 1701性格不明遺構(第20図)

調査区東側P-10Gに主体を置く。長軸420~550cm(南北)で短軸320~430cm(東西)の規模である。平面形は北・東に張り出す不整長方形を呈している。深さは確認面から10cmと浅い。長軸方位は、N-50°-Eである。覆土は、上層が削平されているが、炭化物混じりの暗オーリーブ色砂質シルトである。柱穴は全てこの遺構を切った形で検出され、遺構に伴う柱穴は確認できなかつた。

また、覆土中に遺物を多く含み、古式土師器壺・高杯・甕・瓶など多数出土している。遺物が、ある程度まとめて出土していることから、竪穴住居跡の可能性もある。



第19図 調査区南東部溝跡



第20図 SX1701・1856性格不明遺構

### S X 1856性格不明遺構(第20図)

調査区南側O-18Gに主体を置く。北側の遺構の範囲は不明である。規模は、長径200cm(東西)、短径170cm(南北)を測る。深さは、確認面から30cmで、断面形は底部がやや窪み、開口部に向けて緩やかに立ち上がっている。西側と南側に半円形の焼土壁があり、壁面が赤く焼き締まっている。

西側の焼土域は、長径65cm、短径60cmで焼土ブロックを多量に含み、その下層に火床面が広がっている。焼土・木炭も多く壁もよく焼けている。北西側の焼土域は、長径60cm、短径50cmで南側焼土域と同様な構造をしている。焼成が、やや不良である。西側焼土域の覆土は7層あり、おむね黒褐色ないし黒色土で、多量に焼土ブロックや木炭粒を含む。南側は、焼土・木炭は検出されるが、西側ほどではない。

本遺跡から北東へ約500mほど離れている南原遺跡で、製鉄遺構(円筒自立炉)が検出されている。その中で炉2基を一組とする遺構も確認されており、本遺跡検出の当該遺構もその可能性があるものと考えられる。しかし、製鉄遺構関連の遺物である鉄滓・羽口などの遺物も出土しておらず、製鉄遺構とはせずに性格不明遺構とした。

なお、当該遺構の周辺に位置する井戸跡(S E 1388)から砥石が出土しているが、関連性は不明確である。また、遺構から遺物も出土しておらず時期も不明である。

### S X 2627性格不明遺構他(第21図)

調査区西区e-17Gに主体を置く。平面形は不整梢円形で、長径350cm(東西)、短径160cm(南北)を測る。断面形は、東側が極端に窪み、深さ45cmを測り、西側が10cm程に浅い堆積になっている。深さは確認面から10cmで浅い。長軸方位は、N-50°-Wである。出土量がある程度まとまっており、土器等の捨て場の可能性もある。

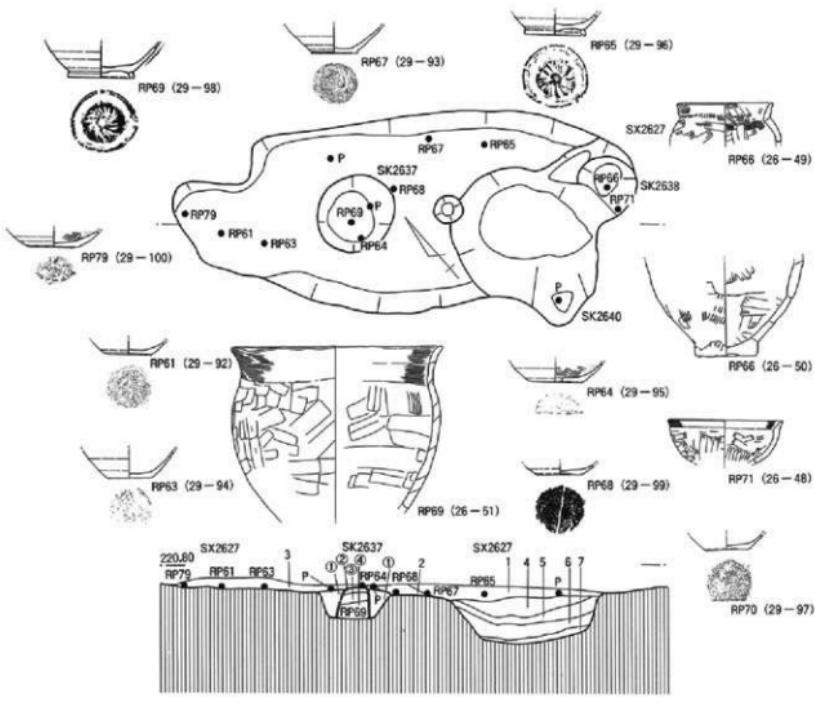
また、断面形は、東側が極端に窪み、西側が10cm程に浅い堆積になっている。堆積した土層は7層あり、上層が黒色ないし黒褐色粘土質土で、下層はややグライ化している。遺物出土量が多かったのは、上層からである。

S X 2627は、S K 2637・2638・2640の上層を切っている。S K 2637は、平面形がほぼ円形で、径60cmを測り、深さは30cmである。遺構内からは、古式土師器壺が逆位でほぼ完形で出土している。また、壺の底部がS X 2627から切られる状態で欠損している。土器内の覆土が3層あり、下層が黒褐色粘土質砂で炭化物を含んでいる。埋設施設などの可能性もあるが、周辺に同様な遺構がないため、判然としない。

S K 2638は、平面形がほぼ円形で径50cmを測る。遺構内からは、古式土師器の壺・壺が出土している。

S K 2640は、S X 2627から上層を削平されており、ほとんど残存していない。遺物も、古式土師器壺・甌の破片が復元不可能な状態で出土した。

S X 2627の出土遺物は、平安時代の土器のみである。そのほとんどは、赤焼土器壺・内黒土器・黒色土器壺が大半である。底部が小さく高台付壺の底部は菊花状のナデツケが施されているものがある。



- SX2627**
- 1 10 YR 1.7/1 黒褐色粘土質シルト 遺物多く含む 炭化物含む 地山巻状に5%含む 柔らかい
  - 2 10 YR 2/1 黒褐色粘土質シルト 遺物多く含む 炭化物含む 柔らかい
  - 3 10 YR 3/3 黒褐色粘土質シルト 遺物多く含む 炭化物含む 地山ブロック状に5%
  - 4 10 YR 3/1 黒褐色粘土質シルト 遺物多く含む 炭化物含む および 黒褐色シルト混じり 柔らかい
  - 5 10 YR 3/2 黒褐色粘土質シルト 遺物多く含む 炭化物含む 柔らかい
  - 6 10 YR 2/2 黒褐色粘土質シルト 遺物多く含む 炭化物含む 地山巻ブロック状に5%
  - 7 10 YR 4/1 黑褐色粘土
- SK2637**
- ① 10 YR 3/3 黒褐色粘土質シルト 炭化物含む 柔らかい
  - ② 10 YR 4/1 黑褐色粘土質シルト 炭化物含む 柔らかい
  - ③ 10 YR 3/2 黑褐色粘土質シルト 炭化物含む 柔らかい
  - ④ 10 YR 2/3 黑褐色粘土質シルト 炭化物含む

0 2 (m)  
(S = 1:40)

第21図 SX2627性格不明遺構他

## V 出土した遺物

今回の調査では、縄文土器・土師器・須恵器・赤焼土器・中世陶器・青磁・石製品・鉄製品など縄文時代から中世の遺物が整理箱にして24箱出土した。出土した遺物数の大半を占める古墳時代の遺物については、ほとんど竪穴住居跡の遺構内から出土している。また、奈良・平安時代の遺物は、西区に集中している。中世の遺物については、掘立柱建物跡・溝跡に、ほとんど破片資料であるが出土している。

以下、出土遺物について古墳時代を中心に、時代・遺構ごとに概観してみたい。

### 1 古墳時代の遺物

#### S T 1571・2500竪穴住居跡(22-1~7)

S T 1571出土遺物には、土師器壺・甕・壺がある。壺は、平底丸底で、底部からやや緩やかに立ち上がり、口縁部と体部の境界に稜を持つ。口縁は、やや外傾する。外面ナデ・ケズリ調整、内面ナデ・ミガキ調整を丁寧に行なっている(1)。

甕は、内面にハケ目調整のある平底甕の底部(2)や頸部から緩やかに外傾し口縁端部で外反するもの(3)、外面に斜め方向のミガキ調整を施しているもの(4)がある。

S T 2500出土遺物には、土師器壺・甕・壺がある。壺は、口縁直下に段を持ち、内面内黒で放射状のミガキ調整がある(5)。

甕は、小型平底甕の底部(6)がある。壺は、外面のハケ目調整を頸部のナデ調整で切られているもの(7)がある。

#### S T 2053竪穴住居跡(22-8~11、23-12~15)

出土遺物には、土師器壺・甕・壺がある。壺は、丸底で半球状の体部に内弯する口縁部を持つもの(8)がある。

甕は、外面にケズリ調整をしているもの(10・11・14)、外面のハケ目調整のあるもの(12)がある。また甕の長胴化が進み肩部の張らないもの(13)も出土している。壺は、外面ケズリ調整を行い、口縁端部直下に段を形成しているもの(9)、内面ハケ目調整を荒く施されているもの(15)がある。

#### S T 2054竪穴住居跡(23-16~21、24-22~24)

出土遺物には、土師器壺・鉢・甕・甕・壺がある。壺は、半球状の体部に外傾する口縁が付くもの(16・17)や赤彩で体部中位に段を持つもの(18)がある。

鉢はやや上位に最大径を持ち、口縁部がやや外傾している(19)。甕は、法量が大きく、口縁部が外反する器形である。口縁部直下まで外面にタテのハケ目調整をして、口唇部を付けている(20)。壺は、内外面ともケズリ調整のある球状のもの(21)、口縁部が直立するもの(22)、体部のみだが胴部中位に最大径を持ち球形を呈しているもの(23・24)がある。

#### S T 2105竪穴住居跡(24-25~34、25-35~39)

出土遺物には、土師器壺・鉢・甕・甕・壺がある。壺は、半球状の体部に内弯する口縁が付き、外

面にケズリ調整をしているもの(25・29~31・33)、外面にハケ目調整をしているもの(26)がある。ハケ目は、口縁部直下まで施され、口縁部を意識している。また、底部に粗く沈線を施しているもの(26・28・34)がある。法量は小さいが、口縁部が長く、中位に段を形成している須恵器模倣坏も出土している(27)。底部を丁寧にヘラケズリし内面に放射状のミガキが入る。

鉢は、口縁部直下からハケ目調整がなされ、底部直上でナデツケがされているもの(37)がある。壺は、体部外面にハケ目・ケズリ調整をしているもの(35・36・38・39)、ケズリ調整のみのもの(36)がある。(39)は、長胴化が進んでいるが、まだ肩部が若干張っており6世紀に一般的にみられるナデ形で下膨れの器形とは異なる。また、器高が30cmを超えており、中小型が主体となる時期とは異なる。壺は、口縁部が直立し、ハケ目調整を施している(40)。

#### S B 2501掘立柱建物跡(25~41)

出土遺物には、土師器坏がある。坏は、底部は欠損しているが、半球状の体部に外反する口縁が付くもの(41)がある。

#### S D 27溝跡(25~42)

出土遺物には、高杯がある。内面内黒処理され、短脚である(42)。

#### S X 1701性格不明遺構(23~43~46, 26~47)

出土遺物には、土師器坏・高杯・瓶がある。坏は、やや膨らみのある半球状の体部に、やや外傾する口縁が付くもの(43)、口縁部直下に段を形成しているもの(44)がある。

高坏は、短脚で赤彩もの(45)がある。瓶は、口縁部が外反し、体部がやや膨らむもの(46)、緩やかに立ち上がり、無底式のもの(47)がある。

#### 西区 S K 2638土坑跡(26~48~50)

出土遺物には、土師器坏・壺がある。坏は、半球状の体部に、外傾する口縁が付き、内面に稜を形成するもの(48)がある。

鉢は、肩部があまり張らず、口縁部が直立気味のもの(49)があり、壺は底部からやや外傾するもの(50)がある。体部のハケ目調整が際立っている。

#### 西区 SK 2637土坑跡(26~51)

出土遺物は、土師器壺がある。最大径がやや上位にあり、口縁部が外傾している。体部外面・内面にケズリ調整を施している(51)。

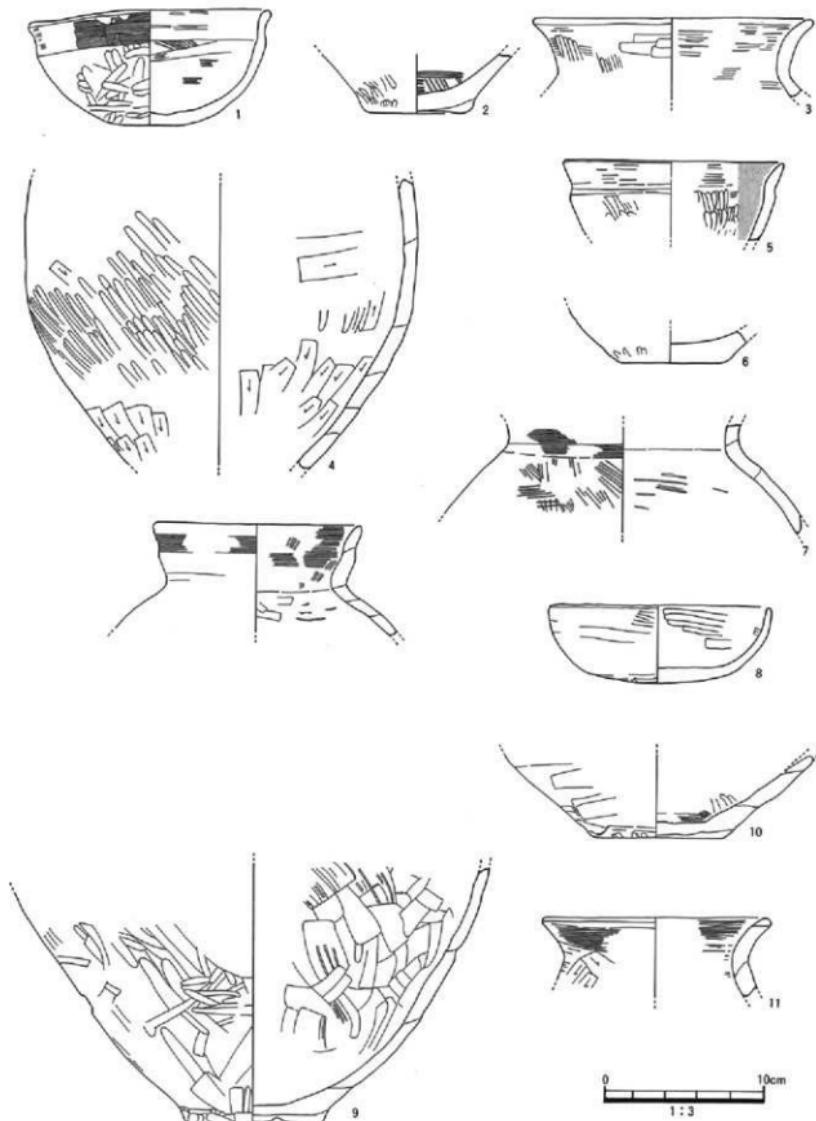
#### グリット遺物(26~52)

出土遺物には、土師器坏がある。内面黒色処理されており、外面ケズリ・ハケ目調整で、内面ミガキ調整を施している。口縁部がやや内弯している(52)。

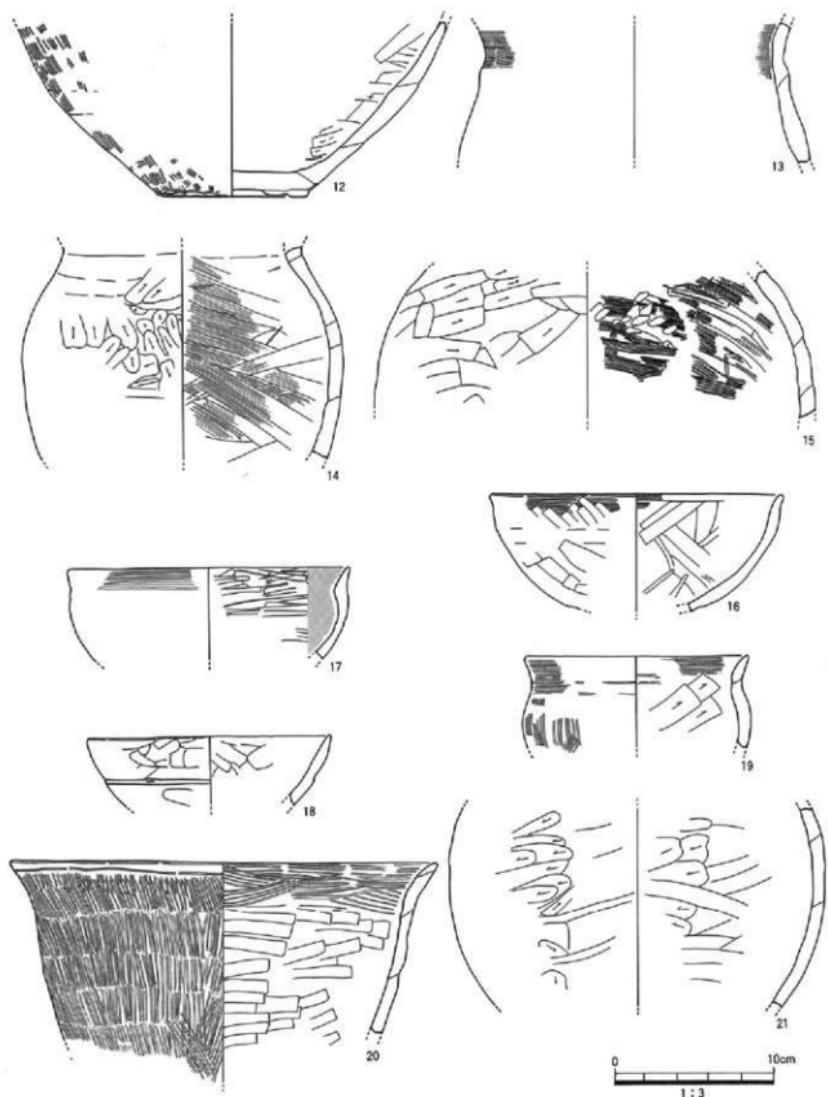
#### 北区 遺物(26~53~56)

出土遺物には、土師器坏・高杯がある。坏は、内面黒色処理されており、口縁部外面に若干煤が付着している(53)。半球状の体部に、クの字に外反した口縁部が付く。

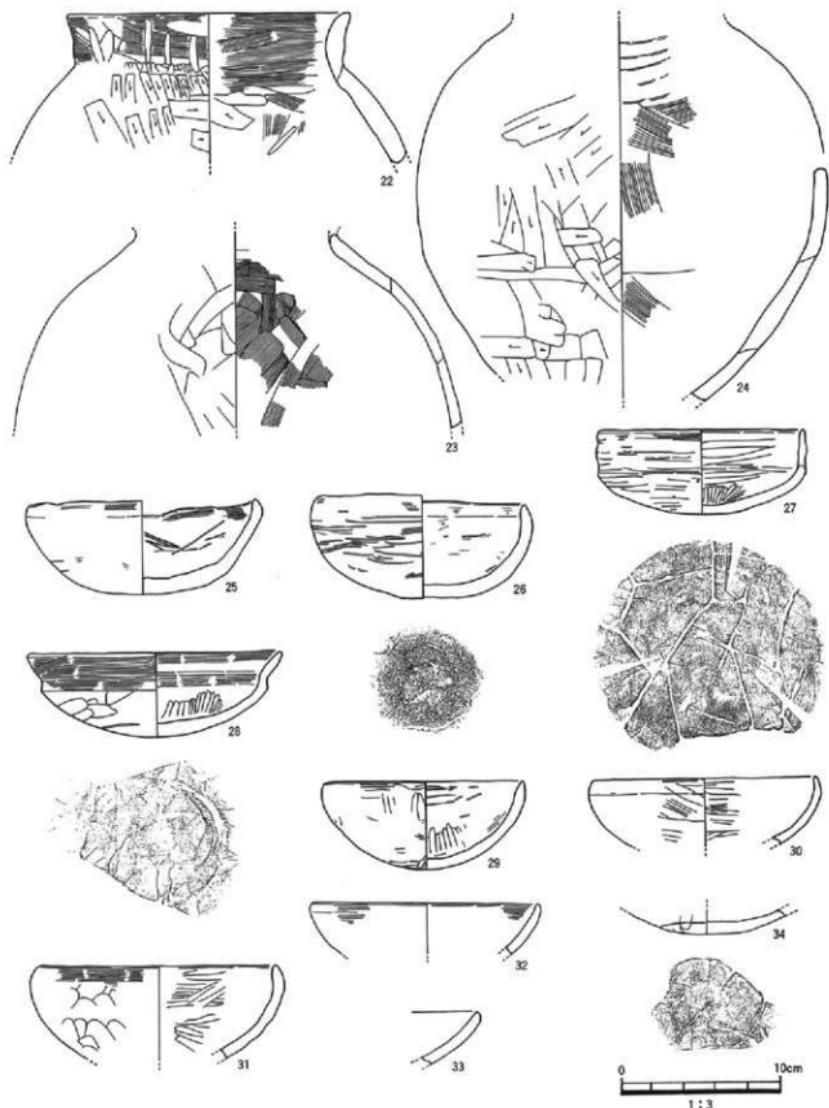
高坏は、脚部のみ出土し、すべて短脚で中実である。内黒処理されているもの(54・56)がある。坏部が欠けてしまっているものがあるが、この遺物も器形から内黒と思われる(55)。また外面の調整がミガキ・ケズリのもの(54・55)、ハケ目・ケズリのもの(56)に分けられる。



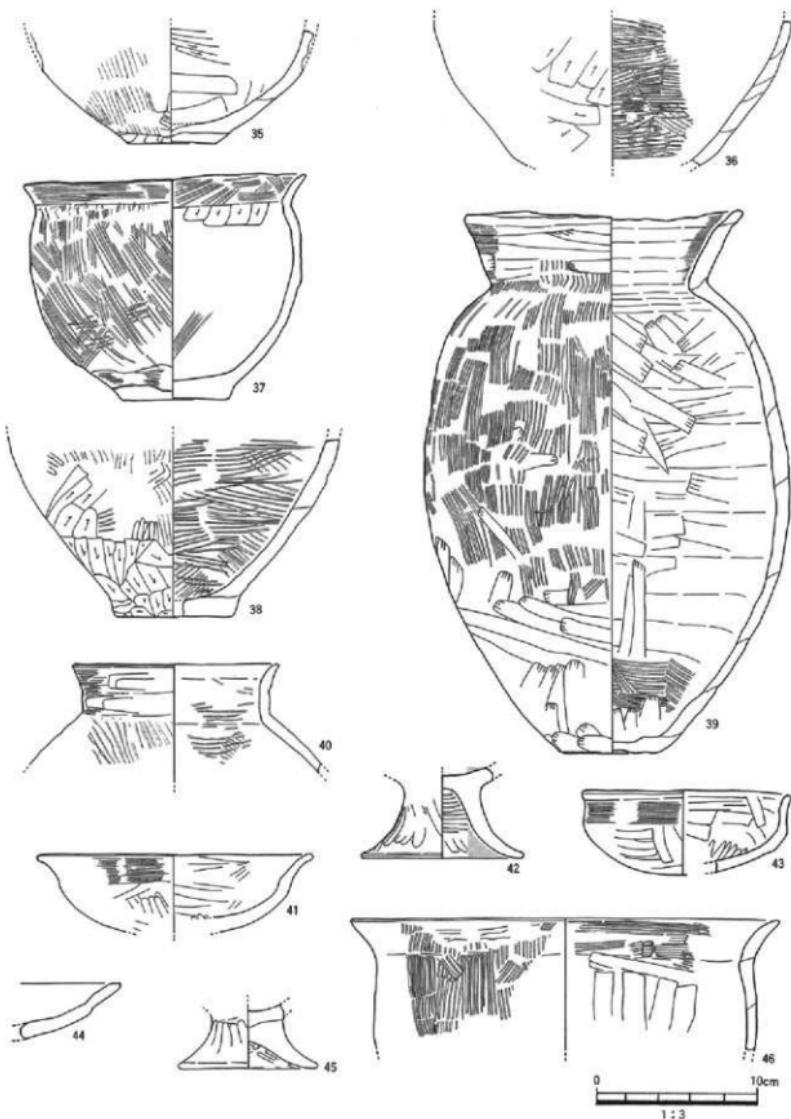
第22図 出土遺物(1)



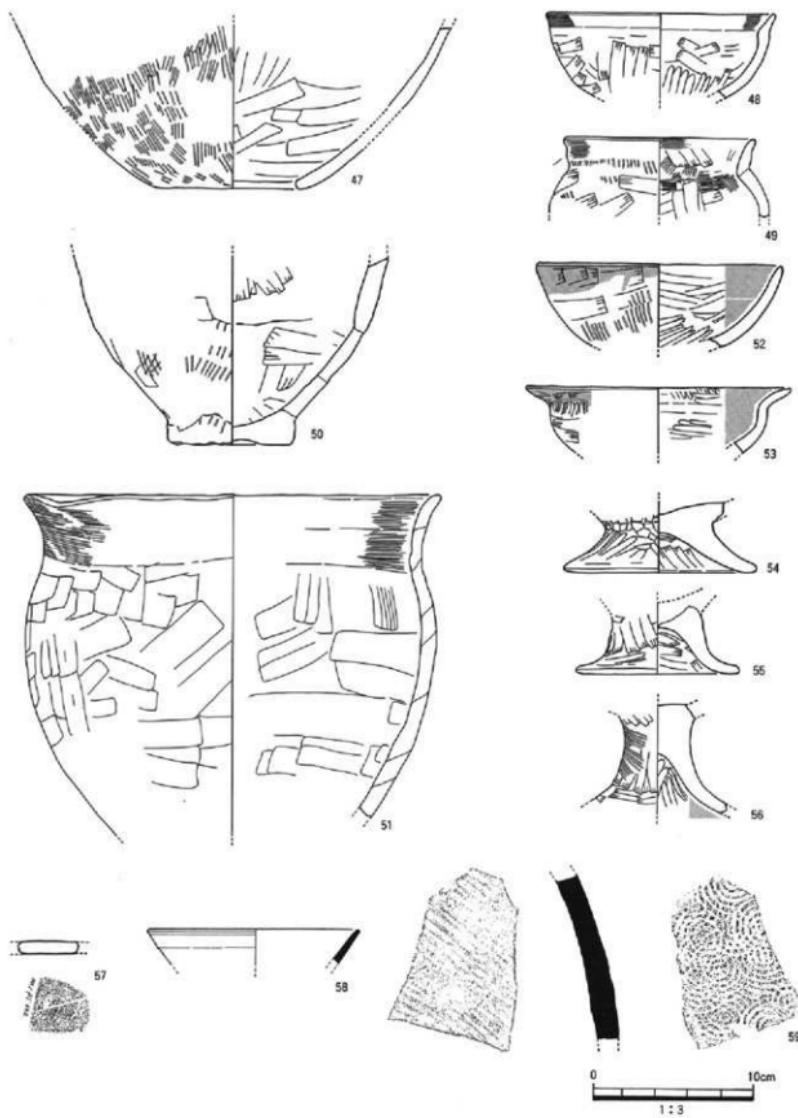
第23図 出土遺物(2)



第24図 出土遺物(3)



第25図 出土遺物(4)



第26図 出土遺物(5)

## 2 その他の遺物

### 縄文時代の遺物(29-105・106)

縄文時代の遺物には、粗製浅鉢の口縁部把手(105)がある。両脇が欠損している。端部に若干の窪みがある。また、磨耗が激しく、施紋が不明の粗製浅鉢の底部(106)がある。

### 奈良・平安時代の遺物

奈良・平安時代の遺構から出土したもので、特徴のある遺物のみ述べる。

#### S T 689竪穴住居跡(26-57・58)

出土遺物には、須恵器壺と土師器壺がある。須恵器壺は、口縁部のみのもので直線的に立ち上がる(58)。土師器壺は、底部のみのもので、木葉痕が確認できる(57)。胎土がもろく、粗砂混じりである。

#### S D 27溝跡(28-81~84)

出土遺物には、赤焼土器高台付壺・鉢・壺と須恵器壺がある。赤焼土器高台付壺は、底部のみのもので、菊花状ナデツケ調整が施されている(81)。赤焼土器鉢(83)・壺(82)については、両方ともロクロ成形している。口縁部がクの字状に外反した後に若干の摘み出しを行なって、段を形成している。カキメ調整が丁寧に施されている。須恵器は、大壺の頸部が出土している(84)。

#### 西区 S E 2608・S X 2627・グリットの遺物(27-62~73, 28-74~78, 29-92~104)

出土遺物には、赤焼土器、内黒土器、黒色土器がある。赤焼土器は、壺(62-70・92-94・97・99・102・103)と高台付壺(71・96・98)がある。底部にケズリ調整を行なっているものもある(62・67・71)。壺は、体部の立ち上がりから、直線的に立つもの(67-70)、口縁部で外反するものの(102)がある。高台付壺は、付高台で平底の高台が接合され、その後接合部付近にケズリ調整が施されている(71)。

内黒土器は、壺(72・73・95・100)と高台付壺(74-76・101・104)がある。壺は直線的に立ち上がり口縁部で外反するもの(72)がある。高台付壺は、すべて付高台で、底部に菊花状ナデツケが施されている(74-76・101・104)。立ち上がりが、直線的なもの(74・104)、口縁部が外反するもの(75・76)がある。黒色土器は、いずれも高台付壺で、底部に菊花状ナデツケが施される(77・78)。口縁部が外反する器形がある(78)。

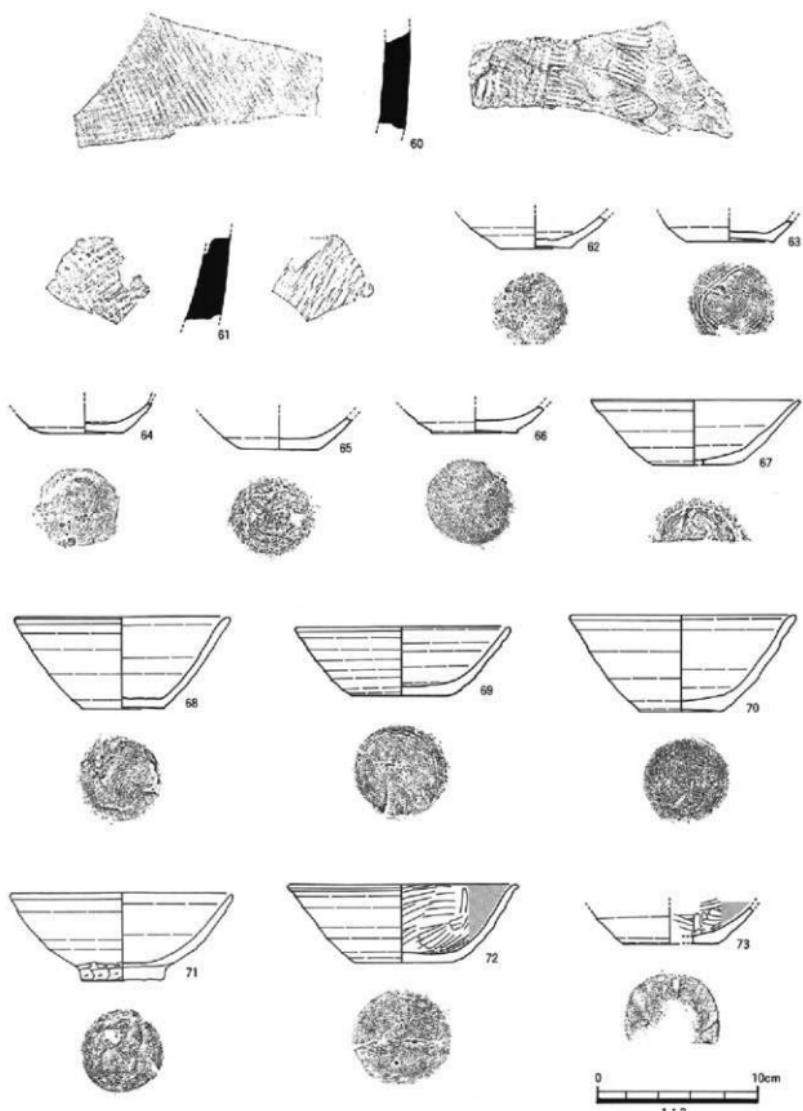
### 中世の遺物

#### S B 2506掘立柱建物跡(29-107)

出土遺物には、E B 1502出土の青磁碗(107)がある。体部破片資料であるが、外面に幅の広い片切彫の鎬蓮弁紋が施されている。器厚が少々厚いが、碗を想定した。上田編年でB-I類と思われる。なお、グリットの遺物として出土したものもあるが、同種と思われる(108)。

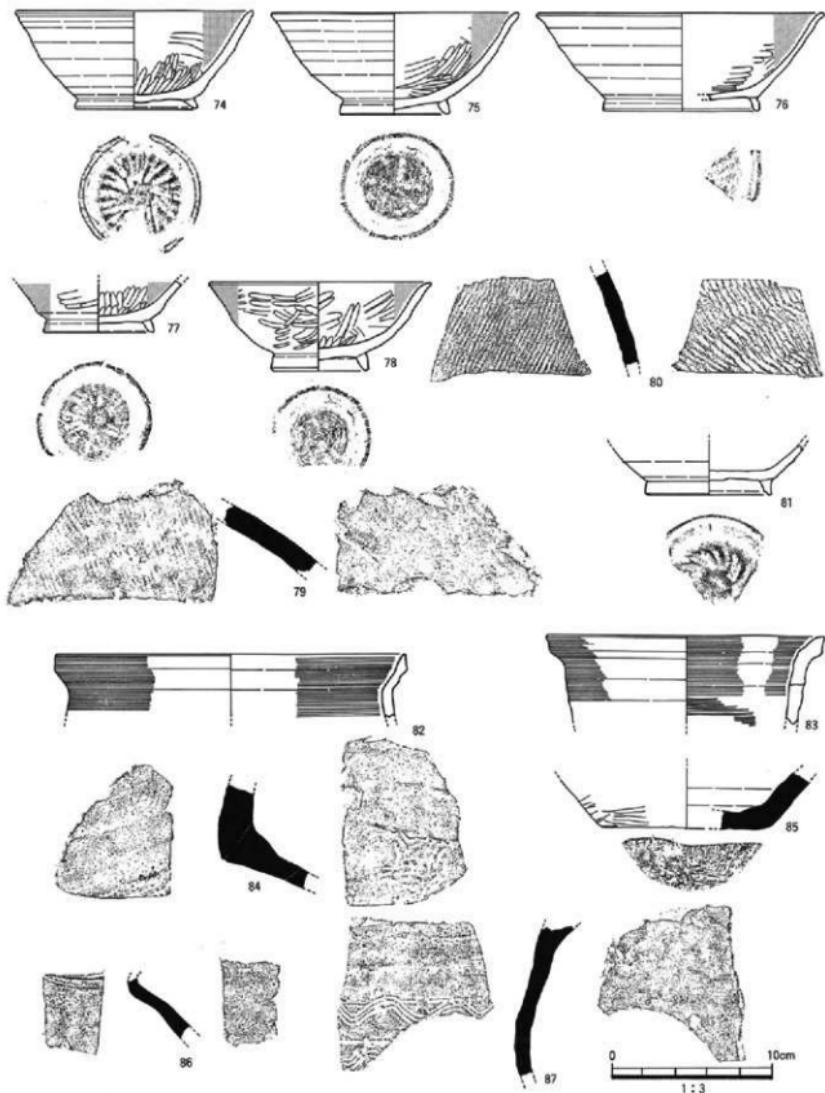
#### S D 1182溝跡(29-111)

出土遺物は、瓷器系陶器(111)がある。器形的にやや古く、産地等不明である。胎土が粗砂混入で、やや粗雑な作りである。肩部にそって深い沈線が施されている。

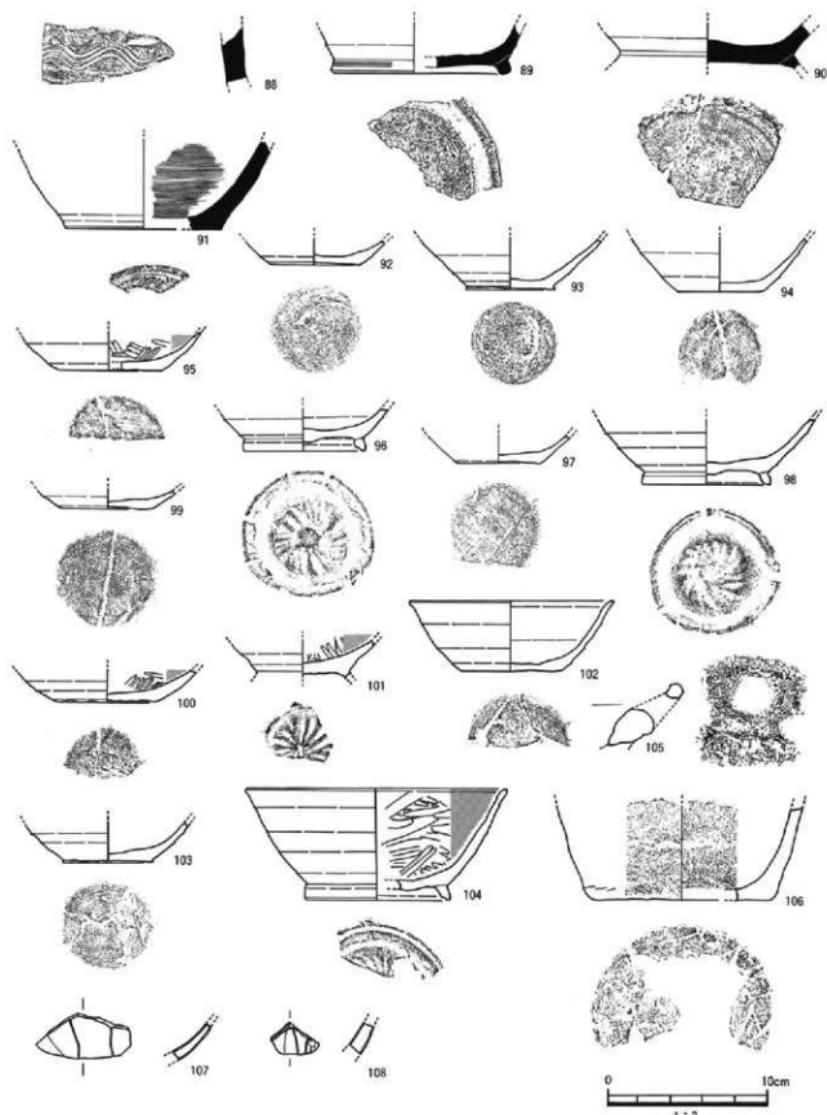


第27図 出土遺物(6)

出土した遺物



第28図 出土遺物(7)



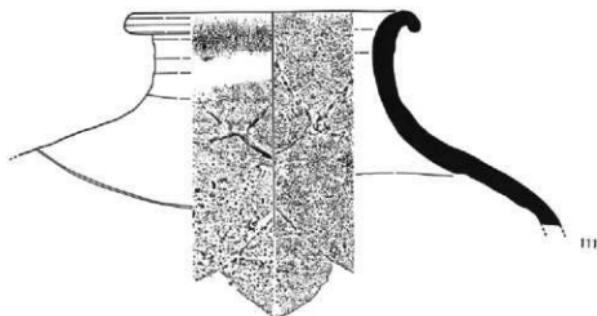
第29図 出土遺物(8)

出土した遺物



109

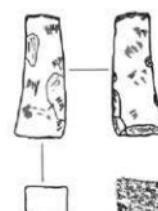
110



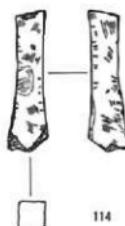
111



112



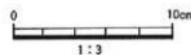
113



114



115



第30図 出土遺物(9)

表1 中里遺跡出土遺物観察表(1)

探査番号	遺物番号	種別	部類	計測値(mm)		色調	調査		備考	出土位置		
				口径	底径		外面	内面				
第1段落	1 1	土師器	壺	(146.0)	72.5	褐色	5YR6/6	ナガ、ケズリ	ナガ、ミカキ	灰嵩吸着、丸底、穀密	ST1571EL	
	2 2	土師器	壺	66.0		灰褐色	5YR5/2	ケズリ	ハゲメ	灰嵩吸着、平底、粗砂混	ST1571EL	
	3 3	土師器	壺	(168.0)		にぶい褐色	5YR7/4	ハケメ、ケズリ	ナガ	細砂混	ST1571	
	4 4	土師器	壺			にぶい褐色	5YR6/4	ミガキ	ハケメ、ケズリ	灰嵩吸着、粗砂混	ST1571	
	5 5	土師器	壺	(130.0)		にぶい褐色	7.5YR7/4	ナガ	ハゲメ、ケズリ	内底、穀密	ST250	
第2段落	6 6	土師器	壺	62.0		褐色	2.5YR6/5	ケズリ		平底、細砂混	ST250	
	7 7	土師器	壺			にぶい褐色	5YR6/4	ナガ、ハゲメ	ケズリ	灰嵩吸着、粗砂混	ST250	
	8 8	土師器	壺	(134.0)	47.0	褐色	5YR6/6	ケズリ	ケズリ	RP 9、丸底、細砂混	ST250	
	9 9	土師器	壺	(126.0)	82.0	浅黄褐色	7.5YR8/4	ナガ、ハケメ、ミガキ	ハゲメ、ケズリ	RP42、平底、細砂混	ST250 EK 4	
	10 10	土師器	壺		80.0	灰褐色	5YR5/2	ケズリ、ナガ	ハケメ、ケズリ	RP10、平底、穀密	ST250	
第3段落	11 11	土師器	壺	(138.0)		にぶい褐色	5YR6/4	ケズリ	ナガ、ケズリ	RP31、灰嵩吸着、細砂混	ST2053EL	
	12 12	土師器	壺		88.0	にぶい褐色	5YR6/4	ハケメ、ケズリ	ハゲメ	RP32、平底、粗砂混	ST2053EL	
	13 13	土師器	壺			褐色	5YR7/6	ナガ		RP16、穀密	ST2053	
	14 14	土師器	壺			にぶい褐色	7.5YR6/4	ケズリ、ミガキ	ハケメ、ケズリ	RP31、係吸着、細砂混	ST2053EL	
	15 15	土師器	壺			にぶい褐色	5YR5/3	ケズリ	ハケメ、ケズリ	RP31、PR42、細砂混	ST2053 EK 4	
第4段落	16 16	土師器	壺	(180.0)		にぶい褐色	5YR5/4	ケズリ	ケズリ	細砂混	ST2054	
	17 17	土師器	壺	(172.0)		褐色	5YR7/6	ナガ	ケズリ	RP33、35、内底面、細砂混	ST2054	
	18 18	土師器	壺	(144.0)		褐色	5YR6/6	ケズリ	ケズリ	赤彩、細砂混	ST2054	
	19 19	土師器	鉢	(134.0)		にぶい褐色	5YR6/3	ケズリ、ナガ	ケズリ	RP22、細砂混	ST2054	
	20 20	土師器	鉢	(260.0)		にぶい褐色	5YR6/4	ナガ、ハゲメ	ハケメ、ケズリ	RP18、二次加熱、細砂混	ST2054	
第5段落	21 21	土師器	壺			褐色	5YR6/6	ケズリ	ケズリ	RP20, 33、二次加熱、細砂混	ST2054	
	22 22	土師器	壺	(172.0)		褐色	5YR7/6	ナガ、ハケメ、ミガキ	ハゲメ、ケズリ	RP23、灰嵩吸着、細砂混	ST2054	
	23 23	土師器	壺			にぶい褐色	5YR6/4	ハケメ、ケズリ	ハケメ	RP33、灰嵩吸着、細砂混	ST2054	
	24 24	土師器	壺			褐色	5YR6/6	ケズリ	ハケメ	RP19, 33、二次加熱、細砂混	ST2054	
	25 25	土師器	壺	140.0	59.0	褐色	5YR6/6	ナガ、ケズリ	ミガキ、ナガ	RP 5、7、丸底、細砂混	ST2054	
第6段落	26 26	土師器	壺	128.0	35.0	褐色	5YR6/6	ナガ、ハケメ	ナガ、ミガキ	RP26、二次加熱、平底、灰嵩吸着	ST2105	
	27 27	土師器	壺	(125.0)	52.0	褐色	5YR7/6	ナガ、ケズリ	ハケメ、ケズリ	RP38、丸底、穀密、成形崩壊	ST2105	
	28 28	土師器	壺	(154.0)	52.0	褐色	5YR6/6	ナガ、ケズリ	ナガ、ケズリ	非第2次加熱、丸底、灰嵩吸着	ST2105 EK	
	29 29	土師器	壺	(120.0)	54.0	褐色	5YR7/6	ミガキ、ケズリ	ナガ、ミガキ	丸底、穀密	ST2105	
	30 30	土師器	壺	(136.0)		にぶい褐色	5YR7/4	ナガ、ケズリ	ナガ、ケズリ	RP38、赤彩、二次加熱、穀密	ST2105	
第7段落	31 31	土師器	壺	(142.0)		褐色	5YR7/6	ナガ、ケズリ	ナガ、ケズリ	赤彩、二次加熱、細砂混	ST2105	
	32 32	土師器	壺	(136.0)		にぶい褐色	5YR7/4	ナガ		赤彩、穀密	ST2105 EK	
	33 33	土師器	壺	(126.0)		にぶい褐色	5YR7/4	ナガ、ケズリ	ミガキ、ケズリ	赤彩、二次加熱、細砂混	ST2105	
	34 34	土師器	壺			褐色	5YR6/6	ケズリ	ミガキ	赤彩、丸底、丸底、新舊痕	ST2105	
	35 35	土師器	壺		54.0	にぶい褐色	5YR7/4	ハケメ、ケズリ	ケズリ	赤彩、粗砂混	ST2105 EK 2	
第8段落	36 36	土師器	壺			(90.0)	にぶい褐色	5YR5/3	ケズリ	赤彩、粗砂混	ST2105 EK 2	
	37 37	土師器	鉢	169.0	65.0	129.0	にぶい褐色	5YR6/2	ナガ、ハケメ、ケズリ	ナガ、ハケメ、ケズリ	RP25, 29、二次加熱、平底、細砂混	ST2105 EK 2
	38 38	土師器	壺		70.0	にぶい褐色	5YR6/4	ナガ、ミガキ、ケズリ	ハゲメ	RP 5、粗砂混	ST2105 EK	
	39 39	土師器	鉢	183.0	60.0	328.0	褐色	5YR7/6	ナガ、ミガキ、ケズリ	ナガ、ミガキ、ケズリ	非第2次加熱、丸底、灰嵩吸着	ST2105 EK
	40 40	土師器	壺	(62.0)		にぶい褐色	5YR7/4	ナガ、ハケメ、ケズリ	ハゲメ	赤彩、細砂混	ST2105 EK	
第9段落	41 41	土師器	壺	(167.0)		にぶい褐色	5YR5/4	ナガ、ケズリ	ナガ、ミガキ	RP41、二次加熱、穀密	SD2501	
	42 42	土師器	高壺		98.0	褐色	5YR6/6	ミガキ	ハゲメ	RP39、内底、穀密	SD2501	
	43 43	土師器	壺	127.0		(53.0)	褐色	5YR6/6	ナガ、ケズリ	ナガ、ミガキ	赤彩、丸底、粗砂混	SX1701
	44 44	土師器	壺				褐色	5YR6/6	ケズリ		赤彩、細砂混	SX1701
	45 45	土師器	高壺		(86.0)		褐色	5YR6/6	ミガキ	ミガキ	赤彩、細砂混	SX1701
第10段落	46 46	土師器	鉢	(260.0)		褐色	5YR7/6	ハケメ	ハケメ、ミガキ、ケズリ	二次加熱、細砂混	SX1701	
	47 47	土師器	鉢		85.0	褐色	5YR7/6	ハケメ	ケズリ	細砂混	SX1701	
	48 48	土師器	壺	(140.0)		褐色	5YR6/6	ナガ、ケズリ	ミガキ、ケズリ	RP71、赤彩、粗砂混	SK2638	
	49 49	土師器	鉢	(126.0)		にぶい褐色	5YR5/4	ナガ、ハケメ、ケズリ	ハゲメ、ケズリ	RP66、灰嵩吸着、細砂混	SK2638	
	50 50	土師器	壺		74.0	にぶい褐色	5YR6/4	ハケメ、ケズリ	ケズリ	RP66、細砂混	SK2638	
第11段落	51 51	土師器	壺	256.0		褐色	5YR7/8	ナガ、ケズリ	ナガ、ケズリ	RP66、二次加熱、粗砂混	SK2637	
	52 52	土師器	壺	(150.0)		淡褐色	5YR8/4	ナガ、ハケメ	ミガキ	内底、丸底、粗砂混	N-15	
	53 53	土師器	壺	(160.0)		灰褐色	5YR6/2	ミガキ、ケズリ	ミガキ	内底、丸底、粗砂混	北区	
	54 54	土師器	高壺		118.0	褐色	5YR7/6	ミガキ	ケズリ	内底、粗砂混	北区	
	55 55	土師器	高壺		(84.0)	にぶい褐色	5YR7/3	ミガキ、ケズリ	ミガキ、ケズリ	粗砂混	北区	
第12段落	56 56	土師器	高壺			灰褐色	5YR6/2	ハケメ、ケズリ	ミガキ、ケズリ	内底、細砂混	北区	
	57 57	土師器	壺			にぶい褐色	10YR5/4			RP 7、係吸着、底部木板剥離、細砂混	ST2053 EK	
	58 58	粗筋器	壺	(128.0)		灰褐色	2.5YR6/2	ロクロナダ	ロクロナダ	RP 8、生焼、細砂混	ST2053 EK	
	59 59	土師器	壺			にぶい褐色	5YR6/3	タタキ	アチ痕	RP17、細砂混	ST2100	

表一2 中里遺跡出土遺物観察表(2)

辨認 番号	國版 番号	遺物 番号	種類	器種	計測 値(mm)	外 面	調 整		備 考	出土位置		
							口径	底径	高さ			
第 27 回	60	60	須恵器	甕		暗褐色	N3/0	タクキ	アテ痕	縫合	SE1388	
	61	61	須恵器	甕		灰褐色	5YR6/2	タクキ	アテ痕	自然輪、縫合	SE1529	
	62	62	赤土器	甕	44.0	淡橙色	5YR8/4	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT4.底部削除・切、ケズリ、縫合	SE2608	
	63	63	赤土器	甕	52.0	にぶい橙色	5YR7/4	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除・切、縫合	SE2608	
	64	64	赤土器	甕	48.0	橙色	5YR7/8	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT5.底部削除・切、縫合	SE2608	
	65	65	赤土器	甕	50.0	橙色	5YR7/8	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT6.底部削除・切、縫合	SE2608	
	66	66	赤土器	甕	50.0	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除・切、縫合	SE2608	
	67	67	赤土器	甕	(126.0) (50.0) 42.0	にぶい橙色	5YR7/4	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除・切、ケズリ、縫合	SE2608	
	68	68	赤土器	甕	132.0 50.0 56.0	橙色	5YR7/8	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除・切、縫合	SE2608	
	69	69	赤土器	甕	132.0 58.0 43.0	橙色	5YR6/8	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT3.底部削除・切、縫合	SE2608	
第 28 回	70	70	赤土器	甕	(140.0) 50.0 60.0	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除・切、縫合	SE2608	
	71	71	赤土器	高台付甕	(136.0) 50.0 54.0	橙色	5YR7/8	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ	RPT4.底部削除・切、ケズリ、縫合	SE2608	
	72	72	内黒土器	甕	140.0 60.0 46.0	浅黃橙色	7.5YR8/4	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	RPT3.77.底部削除・切、縫合	SE2608	
	73	73	内黒土器	甕		にぶい橙色	5YR7/3	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ミガキ	底部削除・切、ケズリ、縫合	SE2608 7号	
	74	74	内黒土器	高台付甕	144.0 73.0 60.0	にぶい橙色	5YR7/4	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除・切、ミガキ	SE2608 7号	
	75	75	内黒土器	高台付甕	(149.0) 65.0 63.0	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除花状ナデツケ、縫合	SE2608	
	76	76	内黒土器	高台付甕	(176.0) (93.0) 61.0	にぶい橙色	5YR7/4	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除花状ナデツケ、縫合	SE2608	
	77	77	黒色土器	高台付甕		黒色	5YR1.7/1	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	底部削除花状ナデツケ、縫合	SE2608	
	78	78	黒色土器	高台付甕	(136.0) 60.0 55.0	黒色	5YR1.7/1	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	RPT7.底部削除花状ナデツケ、縫合	SE2608	
	79	79	須恵器	甕		褐灰色	5YR5/1	タクキ	アテ痕	縫合	SK1819	
第 29 回	80	80	須恵器	甕		褐灰色	5YR5/2	タクキ	アテ痕	縫合	SK1877	
	81	81	赤土器	高台付甕	(76.0)	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除花状ナデツケ、縫合	SD27	
	82	82	赤土器	甕	(212.0)	淡橙色	5YR8/4	ロクロナデ、カキモ	ロクロナデ、ミガキ	底部削除花状ナデツケ、縫合	SD27	
	83	83	赤土器	甕	(170.0)	淡橙色	5YR8/4	ロクロナデ、カキモ	ロクロナデ、ミガキ	底部削除花状ナデツケ、縫合	SD27	
	84	84	須恵器	甕		褐灰色	5YR6/1	タクキ	アテ痕	縫合	SD27	
	85	85	須恵器	甕	(69.0)	明褐色	5YR7/1	ロクロナデ	ロクロナデ	自然輪、底部植物痕、縫合	SD1995	
	86	86	須恵器	甕		灰色	N5/0	ロクロナデ	ロクロナデ	縫合	SD1979	
	87	87	須恵器	甕		褐灰色	5YR5/1	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	底部削除、ロクロナデハメ	縫合	SX2127
	88	88	須恵器	甕		暗褐色	7.5YR4/1	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ	縫合	SX2127	
	89	89	須恵器	甕	(110.0)	褐灰色	5YR4/1	ハケメ	ロクロナデ	自然輪、底部削除・切、縫合	SX2127	
第 30 回	90	90	須恵器	甕	(55.0)	褐灰色	5YR5/1	ロクロナデ	ハケメ	底部削除・切、ハケメ、縫合	SX2127	
	91	91	須恵器	甕	(95.0)	明褐色	5YR7/2	ロクロナデ	ロクロナデ	自然輪、縫合	SX2127	
	92	92	赤土器	甕	54.0	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT6.底部削除・切、縫合	SE2627	
	93	93	赤土器	甕	52.0	にぶい橙色	5YR7/4	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT7.底部削除・切、縫合	SE2627	
	94	94	赤土器	甕	52.0	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT8.底部削除・切、ミガキ	SE2627	
	95	95	内黒土器	甕	(62.0)	淡橙色	5YR8/4	ロクロナデ	ミガキ	RPT4.底部削除・切、底部削除・切、ミガキ	SE2627	
	96	96	赤土器	高台付甕	73.0	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT5.底部削除花状ナデツケ、縫合	SE2627	
	97	97	赤土器	甕	52.0	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT7.底部削除・切、縫合	SE2627	
	98	98	赤土器	高台付甕	78.0	淡橙色	5YR8/4	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT8.底部削除・切、ミガキ	SE2627	
	99	99	赤土器	甕	56.0	橙色	5YR7/8	ロクロナデ	ロクロナデ	RPT8.底部削除・切、縫合	SE2627	
第 31 回	100	100	内黒土器	甕	(58.0)	橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ミガキ	RPT9.底部削除・切、縫合	SX2627	
	101	101	内黒土器	高台付甕		橙色	5YR7/6	ロクロナデ	ミガキ	底部削除花状ナデツケ、縫合	SX2627	
	102	102	非土器	甕	(122.0) (62.0) 42.0	淡橙色	5YR8/4	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除・切、ケズリ、縫合	SX2627	
	103	103	赤土器	甕	53.0	橙色	5YR7/8	ロクロナデ	ロクロナデ	底部削除・切、縫合	e-17	
	104	104	内黒土器	高台付甕	(160.0) (86.0) 66.0	にぶい橙色	5YR6/4	ロクロナデ	ミガキ	底部削除花状ナデツケ、縫合	e-17	
	105	105	須文土器	浅杯		にぶい橙色	5YR6/4	ロクロナデ	ロクロナデ	縫合	SX2027	
	106	106	須文土器	浅杯	(110.0)	にぶい橙色	5YR5/3	ロクロナデ	ミガキ	縫合	J-14	
	107	107	青 瓦	瓶		灰オリーブ	6Y5/2	施錆弁文	施錆弁文	14世紀、露胎灰白5YR8/2	SB2506	
	108	108	青 瓦	瓶		灰オリーブ	6Y5/2	施錆弁文	施錆弁文	14世紀、露胎灰白5YR8/2	I-17	
	109	109	株洲系	甕		褐灰色	5YR5/1	タクキ	押住痕	縫合、生焼、10と同一側面か	SD27	
第 32 回	110	110	株洲系	甕		褐灰色	5YR5/1	タクキ	押住痕	縫合、生焼	SD1790	
	111	111	堺系	甕	178.0	褐灰色	5YR6/2	ロクロナデ	ロクロナデ	縫合、露頭にそって沈埋	SD1185	
	112	112	堺系	甕		褐灰色	5YR4/2	ケズリ	ケズリ	N-10		

表一3 中里遺跡出土遺物観察表(3)

辨認 番号	國版 番号	遺物 番号	種類	器種	色 調	計測 値(mm)	備 考	出土位置
113	113	石製品	石	にぶい橙色	5.7YR7/4	75.0 25.0 18.0	2面痕、切り削・在地	SE1388
114	114	石製品	石	明褐色	5YR7/2	87.0 17.0 15.0	4面痕、在地	H-13
115	115	銅製品	古 銀	綠灰色	7.5GVS/1	23.9 23.0 1.1	元通宝	G-15

## VII まとめ

本遺跡の造構数は、後世の攪乱なども含めて2,600以上あるが、遺物数は少なく、24箱にとどまる。特に、主体をなす造構は、古墳時代中・後期の集落跡である。この時期の竪穴住居跡とした造構は、6棟でカマドを有するものと地床炉のものがある。調査の過程で、カマド設置を想定できるものは3棟(S T 2053・2054・2105)である。地床炉が確認されたものは1棟(S T 1571)、炉跡の未確認のものが2棟(S T 2019・2500)である。

カマドの位置は、壁の中央に設置されるもの(S T 2053)と、やや左側に設置されるもの(S T 2054・2105)がある。主軸方向は、西側(S T 2053)・東側(S T 2054・2105)にわかれ、地床炉が確認されたもの(S T 1571)もやや東よりである。カマド設置の住居跡が多く、周辺の南原遺跡と同じ傾向を示している。しかし南原遺跡は、主軸方向が南北である点や、カマド脇の貯蔵穴があることなど本遺跡の特徴とは異なる点もある。東北地方一般に流布している造り付けカマドであるかは判然としない。ただし煙道等が確認されておらず、地山削り出しの可能性もある。

本遺跡の主体をなす遺物は、古墳時代中・後期の土師器である。その中で、器形から時代的にもっとも良く影響を受ける壊について分類してみたい。

壊A類 半球状の体部に短く外傾ないし外反する口縁部を持つもの

(1・16・17・28・41・43・44・48・53)

壊B類 半球状の体部と内弯する口縁部からなるもの

(8・25・26・29・30・31・32・33・52)

壊C類 扁平な半球状の体部とほぼ垂直に立ち上がる口縁部を持つもの。須恵器模倣壊。

(5・18・27)

壊A類と壊B類は、どの造構からも出土し、出土量も多い。また、赤彩の割合が多く、内黒処理されているもののほとんどは北区出土である。ただし、北区は表面採取のため集落の変遷を辿るまでには至らない。主たる造構よりも新しい時期に含まれ、北側に一段階新しい集落跡が形成されていたことが予想される。壊C類は、須恵器模倣壊で、壊A類・B類よりも新しい段階の要素を含んでいる土器である。住居跡から出土していることから、集落で一定量使用していたことが考えられる。なお、底部は、丸底が多く(1・8・25・27・28・29・34)、中でも底部に丸く沈線を施すものもある。壊A類で、丁寧にケズリ調整され、胎土も緻密なもの(1・28)は、宮城・福島両県にない特徴である。また、壊B類で、口縁部直下までハケ目調整されるもの(26)は、宮城県(小午田町駒込遺跡など)に類例がある。

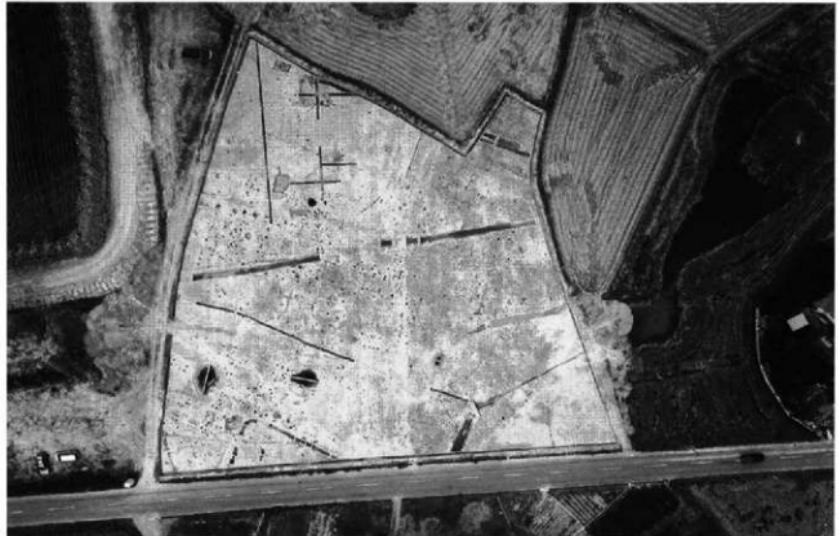
供膳形態として、他に高壊・壺・壺などが伴う。高壊は、壊身の部分が欠損しているものばかりだが、短脚中実で器高の低いタイプである。高壊については、地域差があるので、時期決定の指標とするかは問題がある。壺については、肩部があまり張らず、長胴化の傾向がみられる。外面の調整もハケ目調整を行っており、福島県中通り地方よりは会津地方の土器と類似している。主たる年代観を柳沼編年のV期、青山編年の佐平林古相段階と考えたい。

## 報告書抄録

ふりがな	なかざといせきはっくつちょうさほうこくしょ								
書名	中里遺跡発掘調査報告書								
副書名									
卷次									
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書								
シリーズ番号	第75集								
編集者名	押切智紀 黒沼幹男								
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター								
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL023-672-5301								
発行年月日	2000年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
なかざといせき 中里遺跡	やまがたけんよねざわし 山形県米沢市 いはなみのせし 瀧田町瀧田 あざくらきょう 字蔵京 3505他	6202	米沢市遺 跡番号 J-250 (昭和61年 度登録)	37度 58分 11秒	140度 08分 26秒	19990816 ~ 19991015	5,700	県営担い手 育成基盤整 備事業（外 の内地区）	
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項					
集落跡	古墳時代～ 中世	竪穴住居跡	9	土師器 壺・壺・壺・高壺・ 甑・鉢	最上川左岸の自然堤防上に ひらけた古墳時代中・後期 を中心とした集落跡である。  (出土箱数: 24)				
		掘立柱建物跡	2	須恵器 壺・壺・壺					
		井戸跡	4	黒色土器 壺					
		溝跡	9	赤焼土器 壺・壺・鉢					
		土坑跡	8	陶磁器 壺・壺・碗					

図 版





調査区空中写真（真上から）



作業風景（南から）



作業風景（西から）

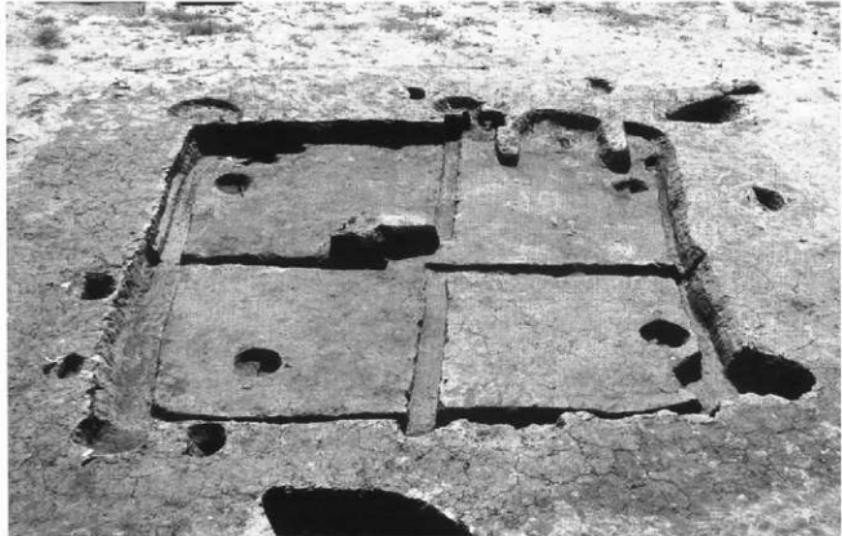


作業風景（北から）



現地説明会風景（東から）

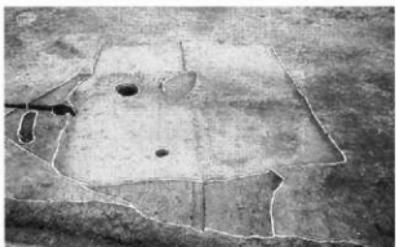
図版2



ST689完掘状況（西から）



ST689EL土層断面（南から）



ST1571・2500完掘状況（西から）



ST1571土層断面（北から）



ST1571EL遺物出土状況（南から）



ST2019・2053完掘状況（北から）



ST2053土層断面（南から）



ST2053遺物出土状況（西から）

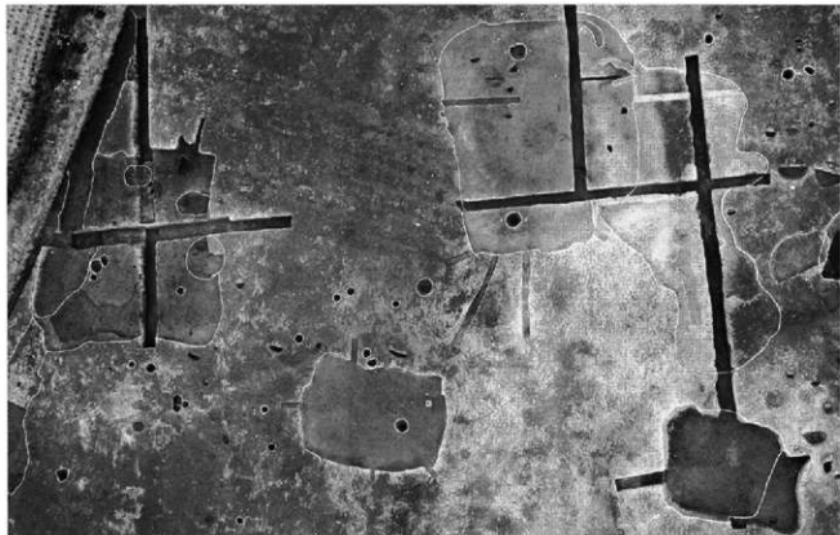


ST2053EL遺物出土状況（東から）



ST2035完掘状況（東から）

図版 4



ST2035・2054・2100・2105空中写真（真上から）



ST2054EL遺物出土状況（西から）



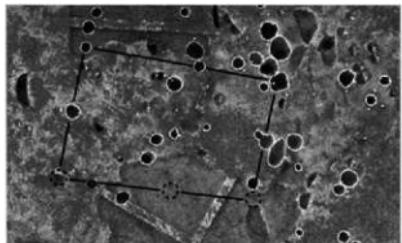
ST2054EL支脚出土状況（西から）



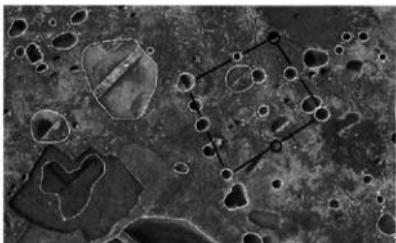
ST2105EK 2 遺物出土状況（南から）



ST2105EL内RP 6 出土状況（東から）



SB2501空中写真（真上から）



SB2506空中写真（真上から）



SB2501EB339内RP41出土状況（東から）



SB2506EB1502内RP32出土状況（西から）



SE233土層断面（南から）



SE1388土層断面（南から）



SE1529土層断面（西から）

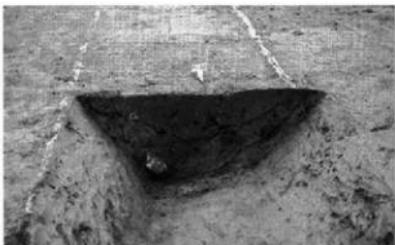


SE2608土層断面（北から）

図版 6



SD27b-b'土層断面（南から）



SD1182a-a'土層断面（南から）



SD1182内RP43出土状況（東から）



区画溝完掘状況（北から）



SX1856（西から）



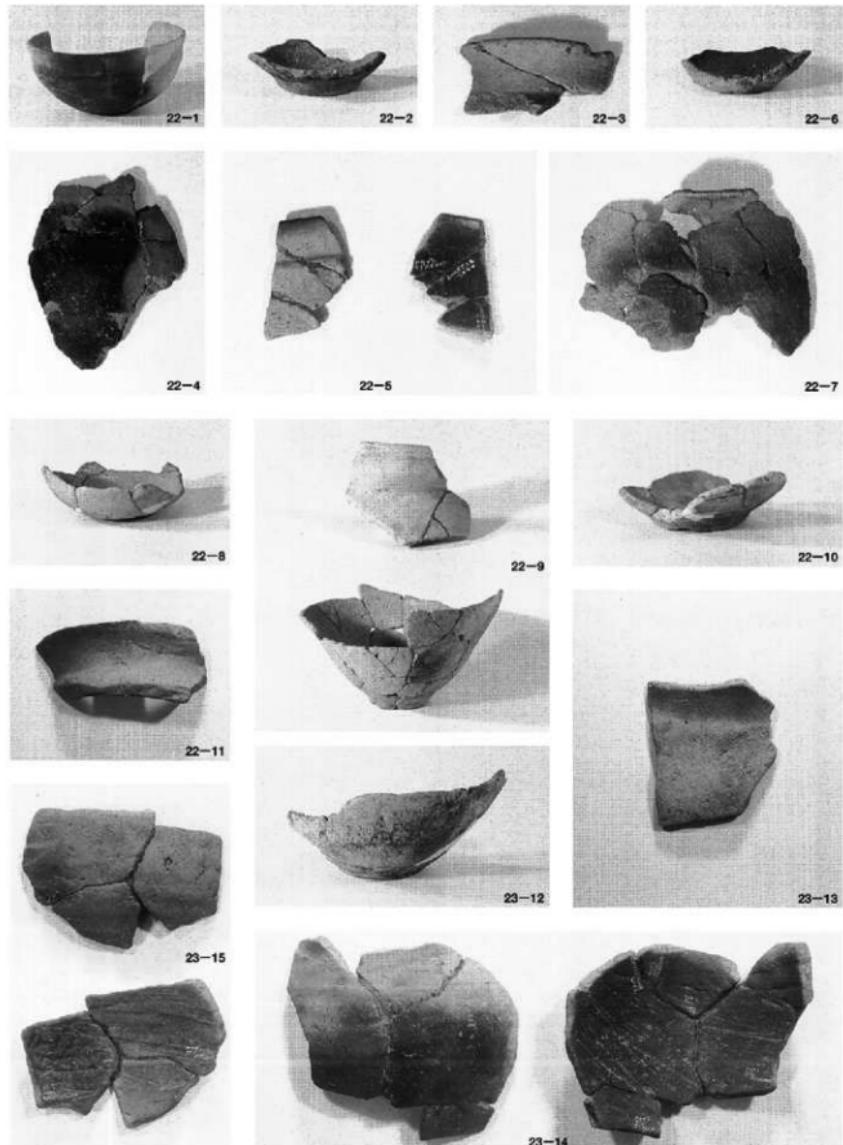
SX2627土層断面（南から）



SK2637内RP69出土状況（南から）

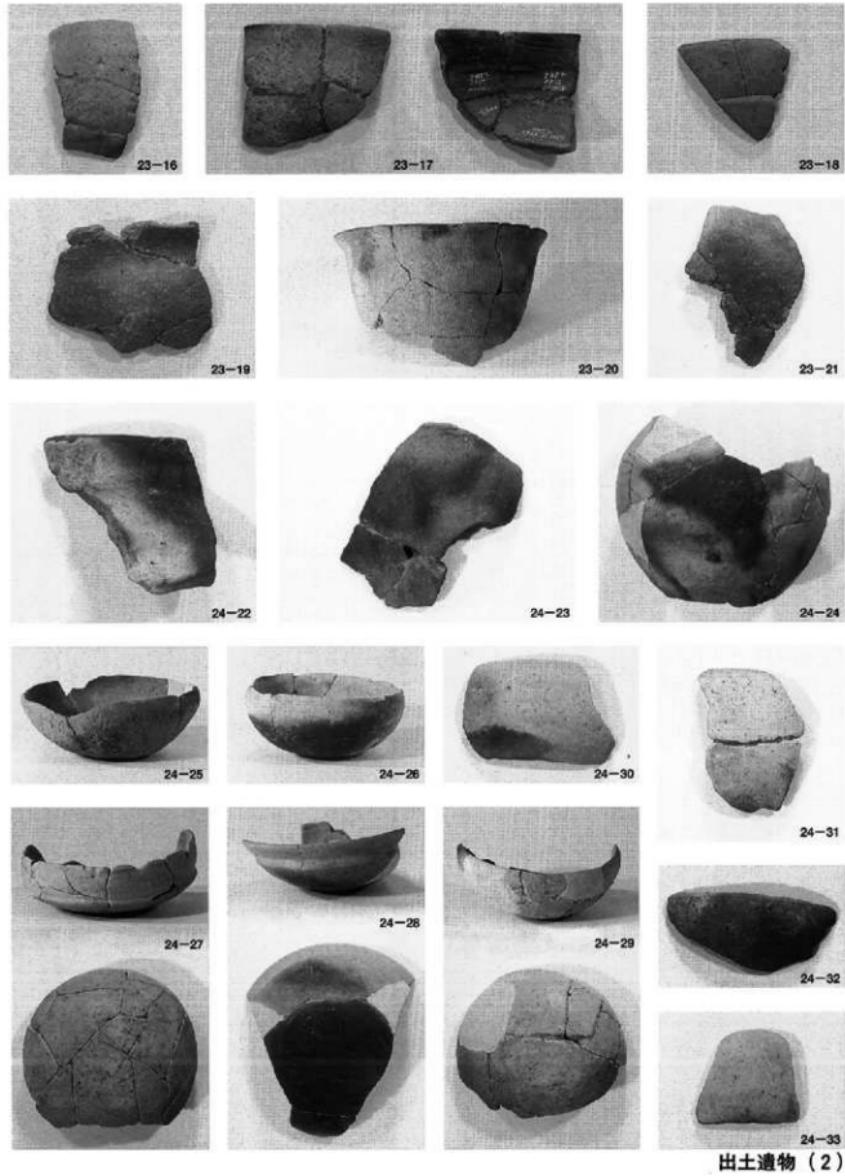


SX2627・SK2636・2637・2638・2640完掘状況（東から）

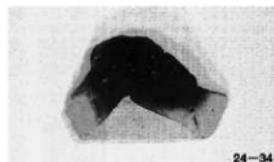


出土遺物（1）

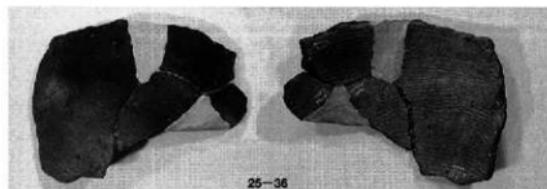
図版 8



出土遺物（2）



24-34



25-36



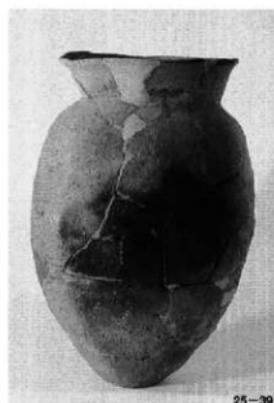
25-35



25-37



25-43



25-39



25-38



25-45



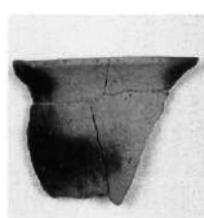
25-40



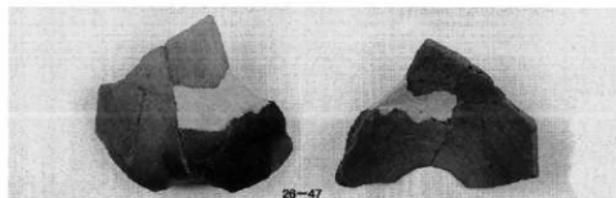
25-41



25-42



25-46



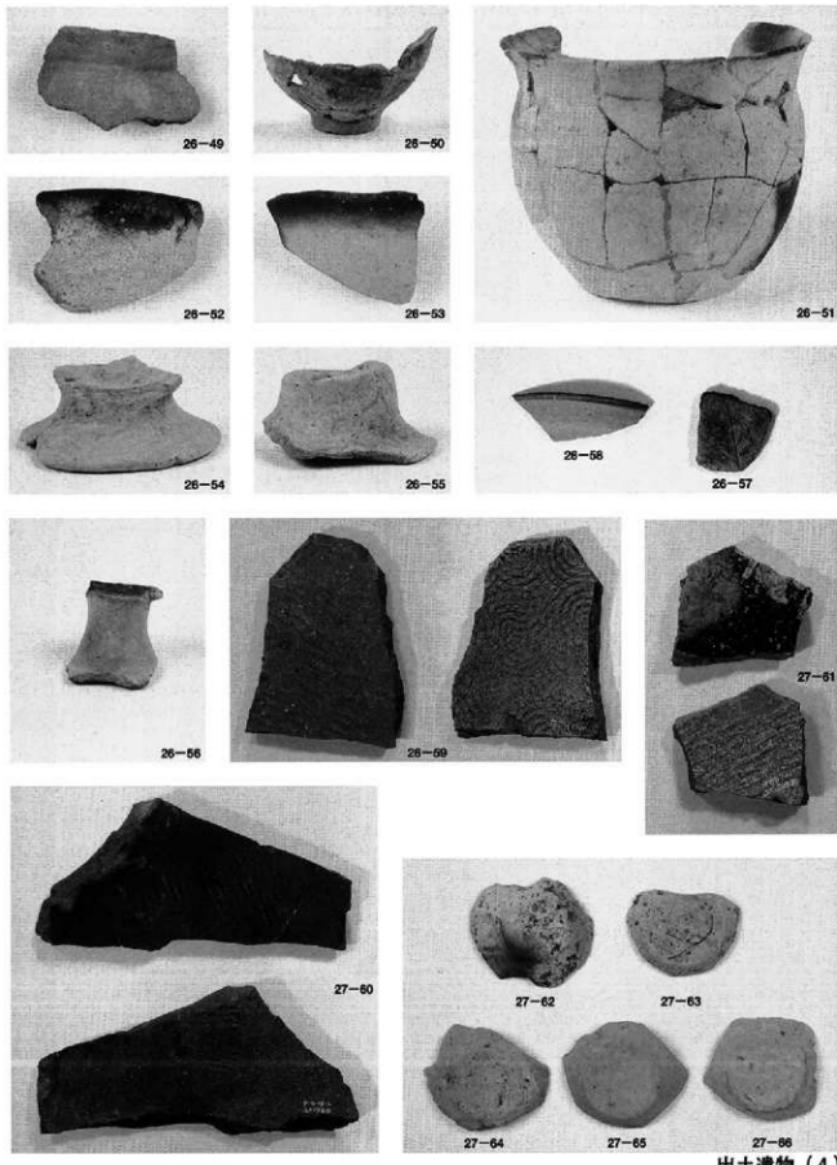
26-47

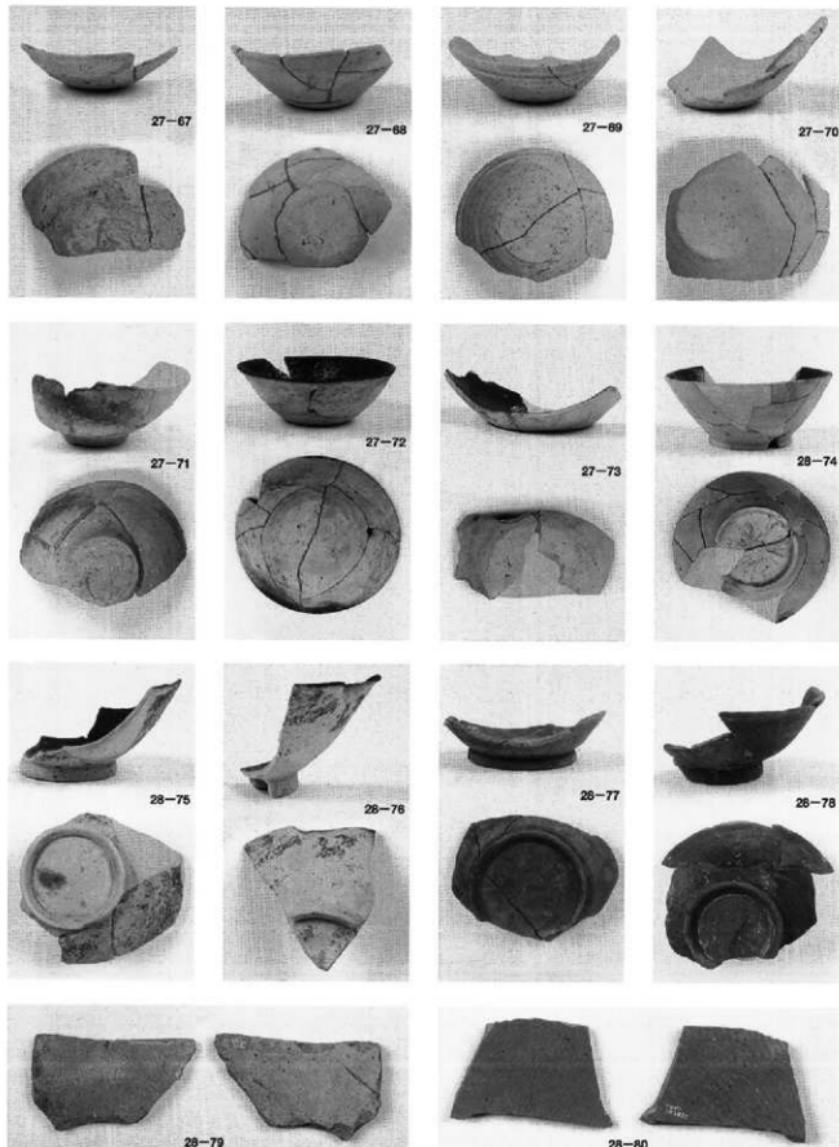


26-48

出土遺物 (3)

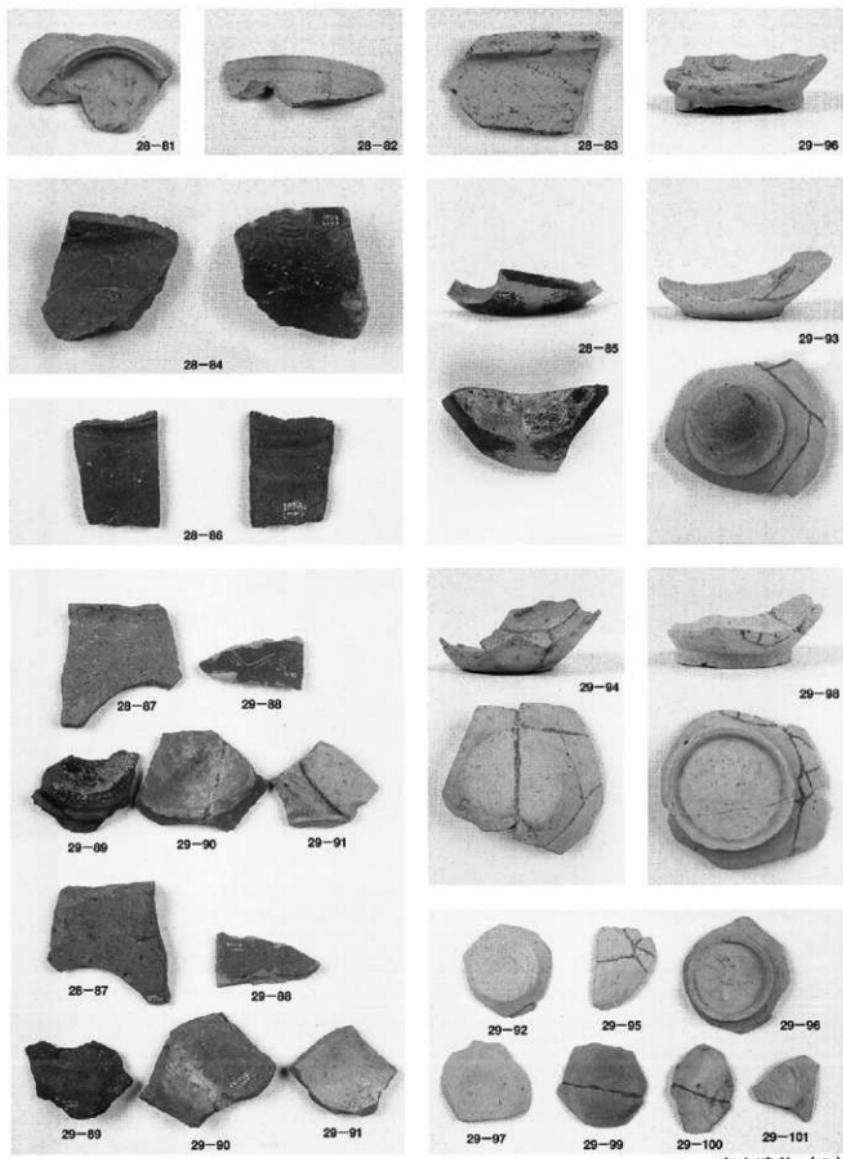
図版10



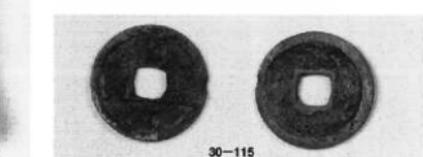
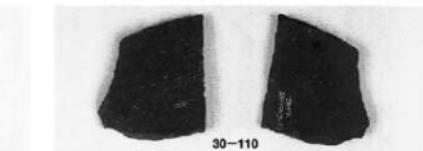
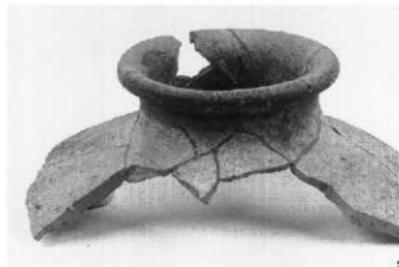
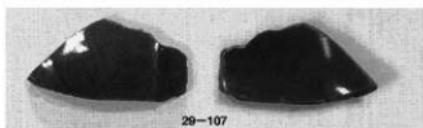
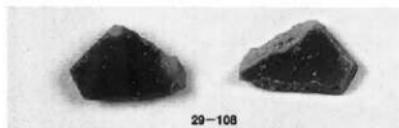
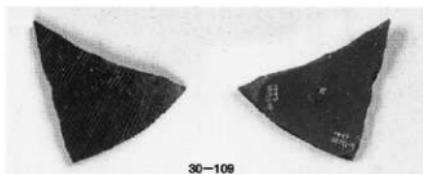
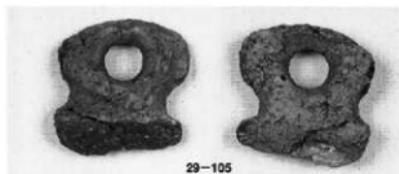
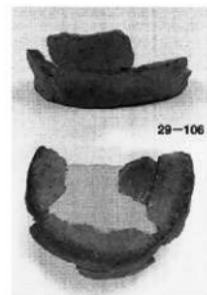
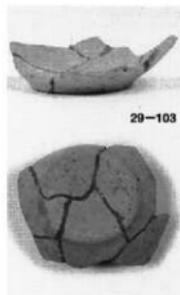
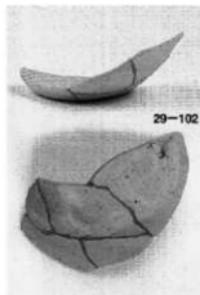


出土遺物（5）

図版12



出土遺物（6）



出土遺物 (7)



付 編



## 中里遺跡 理化学分析業務報告（抜粋）

パリノ・サーヴェイ株式会社

米沢市で中里遺跡の堅穴住居跡(S T2105)の炉跡で確認された骨片状の内容物と土坑跡(S K2489)で確認された貝殻について理化学的試料分析を実施した。なお、前者については、骨同定とリン・カルシウム分析を、後者については、放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代測定を行なった。

### 1 S T2105堅穴住居内の炉跡に関する調査

#### (1) 試料

調査対象は、S T2105炉跡内の甕の下から検出された土壤1点と、その中に含まれていた骨片1点である。

#### (2) 結果

骨同定に関しては、ニホンジカの大脛骨の遠位骨端と、膝蓋骨片と同定された。リン・カルシウム分析に関しては、土性はシルト質埴土で、土色は10YR 4/3に近い黄褐色で、リン酸含量は3.9 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、カルシウム含量は6.6 CaOmg/gである。

#### (3) 考察

天然賦存量に関して、リン酸は一般に約3.0 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/gで、カルシウムは1~50 CaOmg/gである。比較してみると、試料の値は、ほぼ同等である。この結果からみて、リン酸・カルシウムが富化しているとは考えにくい。しかし、同じ土壤から骨片が検出されていることから、富化された成分が溶脱した可能性が高い。土性が、砂がちであることで成分が残留しにくいことや、経年変化の課程で成分が溶脱している可能性もある。

### 2 S D1182内土坑(S K2489)の年代観に関する検討

#### (1) 試料

調査対象は、S D1182の溝底で認められた土坑跡(S K2489)内から検出した貝殻1点と周囲の土壤1点を測定試料とした。

#### (2) 結果

貝殻の年代値は、840年±50年で、δ<sup>13</sup>C(試料炭素の<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて算出した値)は-9.5%である。補正年代値については、貝が生息していた海域の<sup>14</sup>Cを正確に知り得ないが、形式的に補正すると1,090年となる。土壤については、δ<sup>13</sup>Cは-25.9%で、補正年代値は1,230年±70年である。

#### (3) 考察

上記のように、土坑埋積物とその中に含まれる貝殻では年代値に違いがみられた。このような違いは、土坑を埋積する土壤が、周囲に堆積した土壤に由来するもの可能性が高いことから、取り込まれた貝と違う値になった可能性が高い。すなわち、貝の年代値の方が、土坑埋積時の年代を示している可能性が高く、本土坑(S K2489)が平安時代頃に構築されていたことが推定される。



---

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第75集

中里遺跡  
発掘調査報告書

2000年3月31日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号  
電話 023-672-5301  
印刷 株式会社大風印刷

---

